



## 岡山大学 阿波サービスラーニング報告書

～地域で学んだこと、地域から学んだこと～



2020年2月

岡山大学

上野優花・平良真由美・中垣耀・長谷元紀・濱崎桃加・濱野日向子・青尾謙



## 目次

1.	概要	4
2.	活動報告	4
	第1期：活動の模索（2019年6月-9月）	4
	第2期：阿波合宿を中心に（2019年10月-11月）	4
	第3期：「雪のがっこう」に向けて（2019年12月-2020年2月）	5
3.	活動記録	5
4.	学生からの提案	8
a.	観光関連事業	8
	阿波の魅力と課題	8
	ターゲット層	8
	活動内容	8
	運用方法その他	9
b.	その他事業	9
5.	学びの機会として	10
a.	地域での学びとサービスラーニング	10
b.	学生たちの振り返り	12
c.	「雪のがっこう」を通じて	13
d.	地域の皆様から	16
6.	謝辞	17
	参考資料	19
i.	活動写真	19
ii.	学生からの提案企画	24
a.	観光関連の企画	24
1.	楽しむ阿波滞在	24

2.	阿波で自然キャンプ	24
3.	岡山県北サイクリングツアー	25
4.	阿波のグランピングビジネス	26
5.	阿波で伝統生活+木地師体験	27
6.	阿波で自然と地域に出会う1泊2日	28
7.	コミュニティ社会的企業を共に創る(CCC-SE)	30
8.	新しいセレブ番組	34
9.	阿波の食と模擬喧嘩祭り(花祭り)ツアー	35
10.	阿波のガイドブック作成プロジェクト	36
11.	阿波ミュージックフェス(Aba village music festival)	37
b.	観光以外の企画	37
12.	高齢者 × 公民館 × インターネット = QOLの向上 + ネット市場の拡大	37
13.	In-A-Van(バンビジネス)	39
14.	ビジネスコンペティション	40
15.	BGIプログラム(Bring People, Gather Money, Increase Opportunity)	40
16.	阿波ファミリーデー	42
17.	岡大ディスカバリー生のフィールド研修	44
18.	半自動応急処置クリニック(Semi-Auto First Aid Clinic)	45
19.	「ゆるい」移住	47
20.	阿波 森のがっこう	47
21.	Abar~阿波の新たな買い物システムの提案~	49
22.	阿波でバス旅	50

#### 学生コラム

上野優花	「多視点で見る阿波」	7
長谷元紀	「阿波訪問からみる地域活性への大学生の参画」	11
濱崎桃加	「3回の阿波訪問を通じて気づいたこと」	13
濱野日向子	「阿波「雪のがっこう」企画が生まれた経緯と学んだこと」	15
平良真由美	「阿波サービスラーニングを通して」	17

## 1. 概要

本事業は、岡山県補助事業「令和元年度 地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」として2019年6月より2020年2月にかけて実施された。本事業では津山市阿波（あば）地区と岡山大学青尾研究室の連携により、岡山大学の学生（グローバル・ディスカバリー・プログラム<sup>1</sup>）を中心とし、他学部を含む28名）が阿波地区で地域の方々との交流活動や、調査研究、提案作成等を行った。

本事業での主眼を「サービスラーニング（地域での奉仕活動を通じて地域に貢献しつつ、地域の文化や生活、資源や課題について学び、自らの知識やスキルを深めていく手法）」に置き、2019年10月には青尾と22名の学生による1泊2日の阿波合宿を行った。その後、学生による提案から阿波「雪のがっこう」企画のアイデアが生まれ、学生主導で準備を進めていき、阿波地区並びに津山市内の城西地区、津山東高校等の関係者との協働によって2020年2月15日に実施した。

## 2. 活動報告

本事業は2019年6月の活動開始より2020年2月にかけて、その活動内容に従って大まかに以下の3期に分けられる。

### 第1期：活動の模索（2019年6月-9月）

青尾と岡山大学の学生数名により津山市阿波地区を訪問し、関係者とのヒアリングや打合せ、また活動（地域によるリンゴ園、トレッキングコース等）体験を行うことにより、活動内容を検討していった。8月31日から9月2日にかけてはサービスラーニング（地域での奉仕活動を通じた学び）の専門家である、東京の聖心女子大学の杉浦准教授の同行により、地域の方々にインタビュー等を行い、阿波地域の歴史や産業、また女性加工グループの活動について学んだ。

その結果として、阿波地区の「花祭り」（岡山県指定無形民俗文化財）準備補助と、あば村農泊推進事業への協力を中心としたサービスラーニングを行うこととなった。

### 第2期：阿波合宿を中心に（2019年10月-11月）

岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラムの授業「日本の経済」（学生22名、うち留学生11名）の中で阿波地区の歴史、文化、経済について事前学習を行った。

10月19-20日には学生22名と青尾による阿波合宿を行い、1日目は元阿波村助役の小椋繁延様、エコビレッジあば理事長の田中弘様に阿波地区の歴史や地域での運送事業等についてお話を伺った。2日目は5地区に分かれ、地域の皆さまと一緒に花祭りの準備作業を行った。

阿波合宿から戻った後は、学生は米国ポートランド大学のフィッツモリス氏等とともにそのリ

---

<sup>1</sup> グローバル・ディスカバリー・プログラムは岡山大学で2017年に開設された、4年生の学部レベルプログラム。海外からの学生と日本国内からの学生と一緒に、全て英語により学ぶ。

<https://discovery.okayama-u.ac.jp/jp/>

フレクシオン（振り返り）を行うとともに、阿波地区で考えられるコミュニティ・ベースド・ツーリズム（地域主導の観光事業）、地域ビジネス等について各自検討を進め、発表を行った。

### 第3期：「雪のがっこう」に向けて(2019年12月-2020年2月)

授業中の学生による発表の1案であった、阿波地区に子どもを招待する事業をもとに阿波「雪のがっこう」プロジェクトを学生有志で進めることとなった。津山市内城西公民館等のご協力を得て、同地区の小学生を阿波に招待することとなり、学生を中心に準備や関係者との打ち合わせを行った。

2020年2月15日当日は学生6名、津山市内の小学生25名、高校生3名、大学生6名を含め、約50名が参加し、餅つき、木を使ったフィンランドのゲーム「モルック」、雪遊びと子どもたちが自然の中で遊び、交流を深めるとともに阿波について知る機会となった。

### 3. 活動記録

日程	活動内容	参加者
2019.6.29(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿波地域づくり協議会 小椋会長ご挨拶、打合せ</li> <li>宿泊施設（バンガロー）、大高下地区、リンゴ園等視察・体験</li> </ul>	学生3名・青尾 阿波地区の方々
2019.7.28(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>トレッキングコース・布滝視察（体験）</li> <li>農泊推進事業関係者インタビュー</li> <li>リンゴ園視察</li> </ul>	学生3名・青尾 阿波地区の方々
2019.8.10(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿波地域づくり協議会 皆木マネージャーと津山市内で打合せ</li> </ul>	青尾 皆木様
2019.8.31(土) -9.2(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿波合宿</li> <li>公共施設見学</li> <li>小椋繁延様、寺坂様インタビュー</li> <li>皆木様説明</li> <li>リンゴ園収穫手伝い</li> </ul>	聖心女子大学 杉原真晃先生 学生3名・青尾 阿波地区の方々
2019.10.3(木) /10(木)/17(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>岡山大学「日本の経済」で阿波について事前学習</li> </ul>	学生22名（GDP1-3年）・青尾
2019.10.19(土) -10.20(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿波合宿</li> <li>小椋繁延様、田中弘様講演</li> <li>5地区で花祭り準備手伝い</li> </ul>	学生22名（GDP1-3年）・青尾 阿波地区の方々
2019.10.24(木) /31(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本の経済」で阿波合宿についてのリフレクシオン</li> </ul>	学生22名（GDP1-3年）・青尾 米ポートランド州立大学 Celine Fitzmaurice氏、 岡山大学地域総合研究セ

		ンター 吉川幸氏
2019. 11. 3 (日)	・阿波花祭り参加	学生 3 名・青尾
2019. 11. 10(日)	・阿波で小椋英祐さん、加エグループ倉持幸代さん インタビュー	学生 7 名・青尾 阿波地区の方々
2019. 12. 7 (土)	・津山市城西地区で「寺子屋」見学 ・城西地区で 2 月「雪のがっこう」打合せ	学生 3 名・青尾 津山市城西公民館
2020. 1. 12 (日)	・津山市内で「雪のがっこう」打合せ ・阿波会場下見と打合せ ・阿波トレッキングコース体験	学生 2 名・青尾 高校生 1 名 (津山東高校) 阿波地区の方々
2020. 1. 31 (木)	・阿波グリーン公社 保田常務理事、あなみ 田中 弘社長インタビュー ・阿波「雪のがっこう」打合せ	青尾 保田様、田中様、皆木様
2020. 2. 9 (日)	・阿波「雪のがっこう」打合せ	学生 3 名 阿波地区の方々
2020. 2. 14 (金)	・岡大生と津山東高校生打合せ ・阿波『雪のがっこう』準備	学生 6 名・青尾 高校生 3 名 阿波地区の方々
2020. 2. 15 (土)	・阿波『雪のがっこう』開催	津山市城西地区の小学生 25 名 学生 6 名・青尾 津山東高校生 3 名 阿波地区と津山市内の 方々

(この他に学内での打合せ等は随時実施)

## 多視点で見る阿波

上野優花

2019年10月19-20日に津山市阿波において合宿が実施された。真っ青な空と、山の緑のコントラストが綺麗な中、緑、黄、赤のカラフルな阿波の伝統芸能「花祭り」の道具を地元の方々と一緒につくった。地元の方々は快く、わたしたちを迎え入れてくれ、たくさん話しかけてくれたのだが、“方言”に苦労した生徒もいたようだった。私自身は生まれも育ちも岡山であり、特に気にならなかったのだが、中には流暢に日本語は話せるものの、海外から来ている学生もおり、コミュニケーションに困ったようだった。しかし、だからこそ、阿波の方々は海外の文化や生活に少しでも触れられ、新鮮に感じたようだった。一方、緑がいっぱいに広がるなか、古風な民家が所々に散らばる阿波の自然の風景は、地方から離れたところに住むわたしたちにとって新鮮だった。

その経験を生かし、合宿後は阿波を盛り上げるためのアイデアについて各々が発表した。発表はそれぞれのバックグラウンドによって、特徴が出ていた。例えば、観光関連に目を向けたのは海外からの生徒が多く、観光以外の地域の方々の生活向上に目を向けたのは日本人学生が多かった。同じ発表内容でも視点が変わったことで、意外なことや、見落としていたことなどに気づくことができた。そこから、同じ課題でも、多くの視点でそれに挑むことができれば、違う見方に気づき、さまざまなアプローチが見え、それが課題解決に繋がるのではないかとということを学んだ。



(写真：上野優花)



## 4. 学生からの提案

22名の学生から、阿波合宿で学んだこと等をもとに、観光振興や地域活動等についての企画提案があげられた。以下 a. 観光関連および b. その他事業に分けてその概要をまとめる。

(詳細は参考資料の「学生からの提案企画」をご参照)

### a. 観光関連事業

#### 阿波の魅力と課題

阿波の魅力として多くの学生があげていたのは、豊かな自然と伝統文化、食事、温泉、使われていない(空いている)公共施設やスペース、住民の親切さ、伝統的な技術・知識、地域コミュニティの間のつながり等、多様な内容であった。その中でも花祭り、「あなみ」での食事、温泉等、2日間の阿波合宿で体験したものが多くあげられており、合宿の経験が学生の印象に残ったことが伺われる。

特に、各地域での花祭りの準備を通して地域住民の方々と交流することができたことが、学生たちには印象的であった様子であった。合宿の前にも阿波を訪問していた学生は「今回集落の中に入ることができて、本当の阿波のありかたを感じられました。これまで私たちが見ていた温泉やレストランは観光客に向けたものであって、阿波の正しい印象とは違っていました。」と述べている。

阿波の課題としては若い人や子どもの少なさ、雇用の不足、地域にただよう「あきらめ感」、交通手段(通院や買い物)の不足、知名度の弱さ、事業への参加者の少なさ、外部(補助金等)への依存等があげられていた。

また、こういった自然豊かな地域は日本国内どこにでもあり、特色を出す必要があるという意見もあった。そのため、学生から提案の企画は後述するように阿波の自然と伝統文化を活かし、そこにプラスアルファの活動を加え、地域住民との交流をしながらの滞在を楽しんでもらうというものが多くなった。

#### ターゲット層

観光事業のターゲットとしては、多くの提案がディープな日本文化体験や田舎体験を求める層(海外からの観光客あるいは日本国内の都市住人)をあげていた。海外旅行者のターゲットは東アジア(中国・台湾・韓国)、米国、オーストラリア、東南アジア(シンガポール・タイ)が中心であった。特にアウトドア活動をするには若い層(20-30代、家族連れ)が主な対象になっていた。また高齢者をターゲットにした移住支援事業や「ヘルスツーリズム」の提案もあった。

#### 活動内容

阿波に滞在してもらう間に、豊かな自然を活かした活動を体験してもらう企画が多く提案された。キャンピング/グランピング(通常のキャンプより恒常的な施設等を使ったもの)、サイクリ

ング、BBQ、ハイキング、ミュージックフェスティバル等である。

また多くの学生から、滞在中に伝統文化体験をプログラムに組み込むことが提案された。温泉、料理教室、昔の生活（遊び）、木地師・林業・農業体験、竹細工、花祭り（模擬）体験等である。食、特に阿波の食材を用いたものに関する関心は高く、記述が多数見られた。学生の1人によれば、「あなみ」での昼食の写真をSNSで公開したところ、大きな反響があったとのことである。

ホームステイ（民泊）の提案も多く見られた。一方でキャンプ場や宿泊施設（バンガロー等）は今ある施設の改善が必要であり、温泉にも多少の「ひねり」が必要との意見も見られた。

また阿波で映画やTVドラマ、アニメ等の撮影をすることにより、（海外にも）広く知られることになるとの提案や、ガイドブックの作成、旧小学校庭や体育館を使ったミュージックフェスティバルの提案もあった。

## 運用方法その他

地域への訪問と、阿波の住民とのふれあいが最も重要な魅力と述べた学生が多かった。一部の学生は海外の「コミュニティ・ベースド・ツーリズム」（地域に立脚した観光事業）を参考として、外部の資源や専門家に依存せず、「地域にあるよいものを見つけ、それを維持発展させて、ビジネスとしていく」という、阿波にある人・モノ・場所を活用していく方向の提案を行った。観光客が外部の業者に連れられて来るだけでなく、地域の方々が阿波の歴史・文化・自然についてガイドすることを推奨する意見が多く見られた。また民泊（1泊1万円前後？）やガイド協力者（1,000円/時前後？）の収入についても地域内で支払うことや、地域コミュニティ開発のための組織（社会的企業）を設立し、活動等の企画・調整を行うとともにその一部をプールする仕組みを作る提案もなされた。

### b. その他事業

観光事業以外に、阿波地区内の様々な課題に対処し、地域活動を活発化させるためのコミュニティビジネス等についても、多様な提案がなされていた。以下個別に事業内容を紹介する。

このうち、阿波に幼稚園児を招待し自然体験してもらう「森のがっこう」企画は、2020年2月に実施された「雪のがっこう」企画の原型となった。

- 高齢者にも使いやすいインターネット物販事業と使い方講習
- 「ゆるい移住」：都会に疲れた人に空き家を提供し、長期（半年程度）住まわせて移住について考えてもらう
- 買い物や保健指導のできる移動販売車
- 阿波で店舗を出店する事業者のためのビジネスコンペティション
- 温泉施設のグレードアップ、農産物朝市等による地域経済活性化
- 「森のがっこう」：外部の幼稚園児に阿波の自然や住民との交流を体験してもらう
- 子連れ家族向けのイベント（短距離の家族マラソンや子どもの「花祭り」体験、調理教室、文化体験、エコツアー等）開催。企業のCSR/福利活動としての実施も
- 半自動で健康診断と応急処置、薬の販売ができるクリニックを阿波に設ける

- ライドシェアサービスの IT 化を目指す「Abar」
- 若手芸術家に阿波で制作してもらい、それらを含めたアート作品を鑑賞するツアーを設けることで、阿波へのバス増便を達成する
- 岡山大学の新入生へのオリエンテーションとして阿波合宿を実施

## 5. 学びの機会として

### a. 地域での学びとサービスラーニング

「サービスラーニング」は地域でのお手伝い等の活動を切り口として、地域の状況や課題について学び、また学生による貢献を考え、他者との協働のもと実践していく教育手法である。留学生を含む多くの学生にとっては、阿波のような中山間地はなじみのある環境ではなく、また岡山市近辺を外れた地域での学習機会や地域の方々と触れ合う機会も学生にとっては多くない。そのような新たな環境の中で学生たちは戸惑いも見せながらも、地域での活動やその振り返り、提案作成に積極的に取り組んでいた。

特に 10 月の阿波合宿で、地域の方々と一緒に作業し、お話をできたことが多くの学生にとっては貴重な学びとなった。特に祭りの準備を進める際の地域の方々の持つ技や地域のつながりの強さ、よそ者に対する親切さが印象に残ったようである。例として、いくつかの学生からのコメントをあげる。(原コメントの英文を青尾が翻訳、一部修正したもの)

「私は村の皆さんと話していて、現在の生活に満足していることと、平安さを感じる事ができました。それは私にとって驚きであるとともに、印象的なことでした。」

「私は風車の作り方がわからず何度も教えてもらって、申し訳ないと謝ったところ、謝ることはない、学生が来てくれて有難いのはこっちなのだと言われました。私は阿波の人たちが外から来る人を歓迎し、敬意を払う様子が最も記憶に残っています。私は阿波の人たちがよそ者に閉ざした、保守的な考え方をしていると考えていましたが、それは間違っていました。」

「阿波のような地方の村の方々と交流できたことは私にとって貴重な経験でした。私にとっての「普通」は阿波の人たちの「普通」ではないことを感じました。そうした異なる考え方を理解し、受け入れようと努力することが、よい関係への第一歩であると思います。こうした姿勢は今後私が新しい人たちと出会う中で役に立つと思います。」

「阿波は私が今まで訪れた中で、最も美しい村の一つでした。私は村人が村に誇りを持ち、来訪者を受け入れることを好んでいることを理解しました。村の皆さんが私たちをもてなし、お話ししてくれたやり方は素晴らしいものでした。将来こうした村に住みたいと思います。」

「私は地方の、おそらく阿波以上に過疎化が進んだ町の出身です。私はふるさとの人と関わりたくないと思っていましたが、今回の経験を通じて、私は自分のふるさとにもよいところがある

のかもしれない、地方のコミュニティについて知りたいと思いました。」

その一方で訪れた地域によっては、住民の方々と学生の間でお話の機会等が少なく、学生も異なる印象を持っていた様子であった。

地域の皆様から地域の歴史や文化、これまでの地域活動（阿波地区の事業、地域運送事業、レストラン立上げ、加工グループ等）について関係者の方々から直接お話を聞かせて頂けたのは学生にとって大変貴重な学びの機会となった。

また合宿中に学生たちで食事を作ったり温泉に入るなど、寝食をともにできたことも、学生たちにとっては楽しみであったようである。工作や料理、自然の中でのウォーキング等、普段の教室内とは違う学生の姿が見られたように思う。日本語の特異な学生が苦手な学生を助けたりする姿も見られた。

担当教員としては、自身にサービスラーニングの知見が乏しく、多くの専門家の教えや助けを頂きながら試行錯誤を続けてきた。そのため地域の皆様や学生にも多大なご迷惑をおかけしたことを申し訳なく思っている。また岡山市から阿波地区との距離や交通手段の問題もあり、合宿後に阿波再訪の機会を持たせた学生が一部に限られたこと、地域の皆様への実際の貢献が限られたことは大きな反省点である。とはいえ結果的には、学生と地域の方々が共に活動することを通じて、地域の方々に喜んで頂くとともに、自然に「地域の皆様から学ばせて頂き、学生の成長につながる」というサービスラーニングの目的が達成できたと感じている。また多くの学生がその経験を通じて成長し、多様な視点や気づきを共有できるようになり、また自発的に企画を進めることができるようになったことは、教員としても大変貴重な経験であった。

#### 阿波訪問からみる地域活性への大学生の参画

長谷元紀

初めて阿波に伺った際、住人の方々との交流を通して地域の課題の一端を知ることができた。一人の住人によると阿波では地域間で十分な情報共有ができておらず、共通の話題が欠落しているという。共通点の欠点は例えそれが地域内に偏在する話題であったとしても「彼らの話題」とし、地域の主体性の欠如を招いてしまう。しかし、ここに外の人が手を加えようとするさらなる分離を起こしてしまう可能性があり、なかなか地域の意識を再統合するのは難しいといえるだろう。よって、起爆剤とはなり得ないが、阿波と他地域の仲介であったり行事のお手伝いを介した交流であったり外の人が地域の雰囲気づくりや地域発展へ寄与することが大学生としての地域活性への参画方法であると私は考える。

## b. 学生たちの振り返り

学生たちは阿波での経験を振り返り、さらに各自が企画を提案することを通じて、自らの経験を深め、更に互いから学ぶことができたと感じていた。また11月の授業（「日本の経済」）終了時に、8種類の知的能力<sup>2</sup>について事前と事後の変化を聞いた結果（17名）の平均は以下の通りであった（5：大きく向上、4：やや向上、3：変化なし、2：やや劣化、1：大きく劣化）。学生たちは阿波訪問を通じて、異なる文化や世代の他者を理解・共感し、自己を理解するという対人理解、および自然理解についての向上を強く実感していた様子である。

知的能力の種類	平均値
他人を理解し、共感する	4.4
自己を理解する	3.8
自然を理解する	3.8
言語的	3.6
視覚的・空間的把握	3.6
論理的・数学的	3.3
体育的	3.1
音楽的	2.9

なお個別の学生からは、本体験を通じて以下のような感想が聞かれた。それぞれが他者との接点を通じて、「新たな自分」を見出せたように感じる。

- 「阿波訪問を通じて、私は異なる背景や世代の人と関わることができ、それによって自分自身がどのような人間であるかについてよりよく理解することができた」
- 「企画のプレゼンテーションを英語でできたことがよい経験となった」「私の意見を皆に伝えたいと思えるようになった」
- 「他の参加者に助けられることで、「助けてもらう立場」を理解することができた」
- 「他人の発言をよく聞けるようになった」
- 「自分は科学専攻だが、経済やビジネスについて学んでみたいと思った」
- 「人口減の地域にもその地域を愛し、それをよそ者に共有してくれる多くの人がいることがわかり、希望を見出した」
- 「以前は「田舎」という言葉を嫌っていたが、もっと学んでみたいと思った」
- 「自然やコミュニティの文化を尊重し、有難いと思えるようになった」
- 「阿波訪問を通じて日本語が上手になったと思う」

<sup>2</sup> ガードナー（H. Gardner）による「8つの知性」理論（8 Intelligences）に基づく。

### 3回の阿波訪問を通じて気づいたこと

濱崎桃加

#### 阿波雪のがっこう

子どもが好きで、雪に触れる機会がめったにない環境なので、今回のイベントは参加者のためだけでなく、自分も一緒に楽しめた。イベントの企画運営は3回目だが、対象が子どもだとこれほど時間がかかるのだなと実感した。

阿波との関わりの中で気づいたことは、1回限りのイベントでも子どもたちには印象に残った部分も大きいのではないかとということだ。また阿波に来たいとの感想も貰えたことはとても嬉しかった。

印象に残る人たちも多くいた。イベント後に記入頂いた簡単なアンケートには、「なるべく短いスパンでイベントを継続してほしい」との意見があった。交通費が多くかかる点や、準備にかかるコストなどを考えて、地域活性化に役立てる、開催者に負担もかかりすぎないバランスを考えていくことが重要だと思う。

#### これまでの阿波での交流

計3回の阿波訪問を通して、毎回違った印象を受けた。一部の住民が率先して地域活性化に取り組んでいるように感じる点もあるが、花祭りのお手伝いで感じたことは、多くの住民が外に出て人と交流することを好み、新しい人の受け入れも歓迎しているということだ。もっと、イベント等を通して、参加者がより多くの住民と交流し、阿波についての話を聞く機会があれば、移住者も見つかるのではないと思う。

#### c. 「雪のがっこう」を通じて

学生の提案による「森のがっこう」をもとに、阿波地区の皆様並びに津山市の中心部城西地区からの小学生、さらに津山東高校のご協力を頂き、2020年2月15日に阿波「雪のがっこう」が開催された。12月頃から準備や関係者との打合せを開始し、様々な準備を学生主導で進めることができた。

当日は阿波旧幼稚園を会場として、25名の小学生、3名の高校生、6名の大学生と地域の皆様のご参加を頂き、あば村運営協議会の小椋会長からご挨拶を頂いた後、リクリエーション、もちつき体験と雑煮・あんころ餅のお昼、午後は木を使ったフィンランドのゲーム「モルック」、雪遊びと充実した1日となった。

なおこの様子は2020年2月16日山陽新聞（日曜ワイド版）にて記事として頂いた。

# つきたて餅「おいしい」

岡山大学生企画  
交流イベント 住民や児童楽しむ

津山・阿波



津山市阿波地区で15日、岡山大学生有志が企画した交流イベント「雪のがっこういっしょ」が、岡山県津山市阿波地区で15日、岡山大学生有志が企画した交流イベント「雪のがっこういっしょ」が行われ、住民や子どもたちがニュースポーツや餅つきを楽しんだ。

過疎地域を支援する県の「おかやま元気！集落」事業の一環。休園中の阿波幼稚園（阿波）に津山市内の児童25人を含む約40人が集まった。計画では雪だるまを作り雪合戦をする予定だったが、ここ数日の間に雪が解けてしまい、代わりに、フリンランド発祥のボウリングのようなスポーツを児童と一緒に餅つきをする児童たち

ツ「モルック」を楽しんだ。

餅つきでは、小学生は大学生に支えてもらい「イチ、ニ、サン」と声を掛けながら、力いっばいきねを振った。約6キをつき、住民らが調理した雑煮に入れたり、中にあんこを入れたりして味わった。津山市立西小6年藤井俊樹君（12）は「雪遊びができなくて残念だったけど、自分でついたお餅はとてもおいしかった」と声を弾ませた。催しを企画した岡山大学1年浜野日向子さん（19）は「子どもたちの元気な声のおかげで、阿波の皆さんにも元気を届けられたのでは」と話した。（山根上貴）

## 阿波「雪のがっこう」企画が生まれた経緯と学んだこと

濱野日向子

私は授業などを通して阿波で活動する中で、柔軟な発想で物事と向き合い、その中で自分ができることをやっていくことの重要性に気づくことができた。私は、将来教師になることを志望していて大学でも教育に関することを学んでおり、阿波に来た際に教育機関が縮小し、やがてなくなってしまった現実にショックを受けた。

私は、子どもたちの声のしなくなった園舎や校庭を目の前にして何とも言えない寂しさを覚え、自分に何かできないかと思うようになった。そこで、地域の人たちと対話を重ねながら交流しているうちに、子どもたちの元気な姿は地域の人達に元気を与えられるのではないかと思った。それだけでなく、子どもたちが楽しそうにしているという地域の姿は、誰から見ても未来を感じるような地域の姿となるだろうと思った。そこで、阿波の方たちも、阿波に来る人たちもみんな阿波に集い、一緒に楽しめるような機会があるといいなと感じ、「雪のがっこう」企画のもととなるような考えが浮かんだのである。

準備を通しては、柔軟な発想が必要になってきた。大学では先生や企画チームメンバーとの話し合い、阿波では地域の方たちとの打ち合わせというように、多くのディスカッションの場を経験した。その中で様々な学び、自分自身の良いところだけでなく弱いところもたくさん見えてきた。自分の意見をどう相手に伝えていくか、相手の意見をどう受け入れ、そこにいるみんなと共感をもって納得していくか。そのプロセスを、とても意識させられた。こういった課外活動としてのイベント企画というものに慣れていないため、私にとってはその流れを考えながら進めていくだけでも精一杯であったが、そういった対話の場をたくさん経験することで自分自身大きく成長できたと思っている。この企画に関わってくださったすべての方々に感謝している。

イベントではたくさん子どもたちが楽しかったと言ってくれ、地域の人達からもたくさん前向きなお声がけをいただいた。しかしながら、もちろん冷静に振り返ってみれば、全体を通して反省点もたくさんみつかった。この経験をいかすべく、私はこれからも人との関わりを通して自分にできることについて考えていきたい。



#### d. 地域の皆様から

学生を受け入れてくださった地域の皆様からは、「地域の文化に興味を持ってもらって嬉しい」「人手不足のところ手伝ってもらって助かった。例年より祭りの準備が早く終わった」「若い人、特に留学生と話ができて楽しかった」等の意見が聞かれた。一方で単発の訪問でなく、継続的な活動を求めるの意見や、既存の行事への参加だけでなく、地域が要望する活動のコンテンツを共に考え、永続的な活動をして欲しいとの声も聞かれた。

またあば村運営協議会／あば村農泊推進機構の皆様からは、学生の活動について以下のような評価とコメントを頂いた（評価は1：低い、3：普通、5：高い）。

学生の自主性	5
企画の質	4
努力	4
インパクト	4
学生の成長	4

「各自治会に分かれての花祭りの花づくりは、地域の方も若い方々と交流ができとても良かったとの評価をいただいている。留学生もおられ、日本の田舎の伝統行事に触れることが出来るいい機会だったのではないかと思う。高齢化が進み、こうした伝統行事の維持も困難になってきており、作業を通じてそうした状況も知っていただけたのではないかと思う。」

「雪のがっこうについては、暖冬で残念ながら雪が無かったが、子ども達と伝統的な餅つき体験やフィンランド発祥のスポーツ「モルック」を体験していただいた。企画、事前の協議、準備も積極的に進められ、当日も学生たちが主体的に運営され参加した子ども達も喜んでいる様子であった。関係人口の重要性が指摘されているが、こうした体験を通じて地域への共感者を広げていくことが重要と考えている。今後も継続的な取り組みを期待したい。」

## 阿波サービスラーニングを通して

平良 真由美

2019年10月よりこの活動に関わり約5か月が経ちました。岡山育ちで、岡山の事は大体分かっていたつもりなのに、この5か月は様々な出会いと発見、そして課題を見つけた学びの多い日々でした。鳥取との県境にある阿波という深刻な過疎問題を抱える小さな村、という認識でしかなかったものが、その土地に足を運び地域の人々と関わることにより「人々が生活する土地」として実感し、そしてその土地が抱える問題に対して自分たちができることはないかと真剣に考えることで自分自身も成長できたと感じています。しかし、それと同時に現実の厳しさ、そして自分たちの無力さを感じたことも事実です。

それにも関わらず外部の人間である我々学生を快く迎え入れて下さり、時に励まして下さった地域の方々への感謝の念は尽きません。

花祭り、雪の学校のイベントを通じて、阿波地区にはほかの地域にはない長い伝統、特有の文化があることを学びました。花祭り、地元の美味しい山菜や川魚、質の良い温泉、美しい山々や川、数え上げたらきりがありません。しかし、それ以上にこの活動を通じて出会った「ひと」、それこそが何かを変える力になると心から感じています。

「こうして来てくれて、話を聞いてくれて、何かをしようとしてくれるだけで有難い」。活動中にかけてくれた言葉が今でも心に残っています。こういった活動を一時のものにせず、自分の中で常に持ち続ける課題として今後とも何かの形でかかわっていこうと思っています。

## 6. 謝辞

今回の事業では、地域の皆様をはじめ、多くの関係者や専門家の多大なご助力を頂きました。皆様のお陰様を持ちまして、大変稔りの多い学びと活動を行うことができました。以下の方々には特に御礼を申し上げます。

阿波地区の皆様、特に大高下、大杉、大畑、竹之下、中土居各地域の皆様

小椋繁延様、寺坂悦子様、倉持幸代様、小椋英祐様

あば村運営協議会ならびにあば村農泊推進機構 小椋道典会長、皆木憲吾様、歌房進修様、岩野大輔ほか皆様

阿波グリーン公社 常務理事 保田知良様、加工グループの皆様

NPO エコビレッジあば 理事長 田中弘様

津山市城西公民館館長 佐々木裕子様、同地域マネージャー 牧原裕子様、地域の皆様

津山東高等学校 久常宏栄先生、射場麻梨沙先生、高校生の皆様  
岡山県県民生活部中山間・地域振興課 主任 石原宗治様  
岡山県美作県民局の皆様  
津山市役所 河本祐志様、石田りゑ様  
聖心女子大学准教授 杉浦真晃様  
国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター長 村上徹也様  
ポートランド州立大学 Celine Fitzmaurice 様  
岡山大学地域総合研究センター（当時） 吉川幸様  
岡山大学社会連携課 瀬良田陽平様、恒國裕美様、石川紫乃様

## 参考資料

### i. 活動写真

(特に断りのない写真は青尾による)

#### 阿波地区の風景



#### 阿波地区の自然



#### 阿波地区の旧家を見学



聖心女子大学 杉浦先生とともに小椋繁延様、寺坂悦子様にお話をうかがう



阿波合宿：あば村運営協議会 小椋会長と NPO エコビレッジあば 田中理事長よりお話を伺う



阿波合宿：5 地域で花祭りの準備をする学生たち





「あなみ」での昼食とキャンプ場でのハッピーバースデー



花祭り見学



「雪のがっこう」準備風景



「雪のがっこう」当日風景







## ii. 学生からの提案企画

ここにあげられた22の企画(a. 観光関連 11件、b. 観光以外 11件)の内容は、学生から提案された英語による企画案を学生有志4名が日本語に翻訳し、更に青尾が内容を含めて確認と修正を行ったものである。最終的な内容についての責任は全て青尾にある。

### a. 観光関連の企画

#### 1. 楽しむ阿波滞在

主なターゲット層	岡山と鳥取を旅行する旅行者。特に岡山経由で鳥取に旅行する人。
企画内容	ホームステイ又は旅館を利用して阿波に一泊する。阿波地域で宿泊や案内の提供が必要。参加者は鳥取(又は他の岡山県内)に向かう途中で休息と阿波を楽しむことが出来る。また、テントを持参して自然を楽しむことも可能。
期間	好きなだけ、どの季節でも。通常は1泊または2泊。
必要なリソース (阿波の中から)	ホームステイや案内のための阿波在住ボランティア。1泊~2泊出来る空き家や施設。
必要なリソース (阿波の外から)	旅行者のための食料
コストと収入	ホームステイは一泊2,000円、収入はホームステイプログラムにボランティアとして携わってくれた方に配分される。空き家に宿泊する費用も同じく一泊2,000円。収入は施設維持や阿波の活性化のために分配。
学生が貢献できること	阿波に一度行ったことがある者として、岡山についてあまり知らない人たちに阿波について伝えることができる。また、どのように阿波の自然風景を楽しむのか、ハイキング、サイクリング、ランニング、キャンプなどを楽しむための理想的な場所として伝えられる。
考慮すべきリスク等	阿波はまだ旅行者にあまり知られていない地域である。もし阿波の人々が旅行者を歓迎する気や友好心がなければ、阿波に訪れる旅行者はいなくなるだろう。

#### 2. 阿波で自然キャンプ

主なターゲット層	主には大学生やバックパッカーなどの若い人。しかし誰でも参加可能。個人でも家族でも可。
企画内容	参加者たちは村、森や山の中に泊まることができる。キャンプのため、各々が食材を持ってくることが望ましいが、一方でホームステイも用意している。もし食べ物を持っていたらBBQや火を使ったパーティーをすることもできる。水遊びや鳥観察もお勧め。阿波の資源を利用しながら、参加者たちが楽しめる時間を作ることで参加者たちを阿波に惹きつけたい。

期間	1日～3日。キャンプのツアーなので、夏または春・秋が最適な季節である。参加者たちは現地の天気を来る前または数日前に確認することができる。
必要なリソース (阿波の中から)	阿波行き交通機関、ホームステイ先、伝統的な食事、日用品が買えるスーパー・店舗、阿波の村や山をよく知るガイド。
必要なリソース (阿波の外から)	阿波行き交通機関。キャンプやハイキング用のテントやその他設備。重要ではないが、バンジージャンプアクティビティにもし熟練した人々がいるとより面白いだろう。
コストと収入	1日1人当たり：2000円(食事、テントなし)、7000円(食事あり、テントなし)、9000円(食事、温泉、テント、その他有り)、1日交通費：1000円
学生が貢献できること	私がこのアイデアを得たのは、スリランカの Meemure という、比較的阿波村によく似た地域について知ったときである。両方とも同じ問題を持っているが、最近 Meemure はその自然の美しさのため、とても高いニーズを得た。もちろん日本はスリランカに比べると多くの施設があるが、忙しい日本人がリフレッシュできるいい機会になると思う。
考慮すべきリスク等	ハイキングや水泳も出来るため保険加入を強く推奨。獣や蛇が出ることも考えられる。テントにいる間やハイキングの間、観光客は自分の身を守る必要がある。観光客に何か問題があったときや、緊急の際に備えて彼らを病院に連れていける救急チームも必要である。食品アレルギーやその他必要事項があればホストファミリーに相談できる。

### 3. 岡山県北サイクリングツアー

主なターゲット層	サイクリスト。月に1回程度自転車をレンタルするような人でなく、長距離の運転が可能なサイクリストが対象。年齢制限は無いが、距離が長いので経験のある自己管理の出来る人が好ましい。また、サイクリストの医療従事者でそれを証明できる人も必要である。
企画内容	サイクリングツアーとして、岡山駅西口からスタートする。道順は国道53号に向かう。自転車で通ることができないような橋などがあるため、代替の道として右側の道を通る。国道53号を過ぎた後、サイクリストは県道461号を通る。ここで休憩所がある。次に道は県道255、468へと繋がる。これらの道は新庄川に沿って続き、そして旅行の見せ場、美作やまなみ街道、心地よい風の完璧なサイクリングロードにたどり着く。これは楽しいだろうが、休憩場所がないため、過酷でもある。しかし、これはそれほど長くは続かず、県道52号に入り進む。その後県道26号、県道477号、国道53号そして阿波村から近い美作河井駅に通じる県道6号に続く。岡山駅から阿波まで合計で片道83kmである。  このプログラムが公共の道路を通るため、冬の間はとても滑りやすく危険であるためプログラムを開催しない。6月と7月上旬も雨天等で好ましくない

	<p>ため、開催しない。これは参加者の確実性の高い安全性を保障するためである。</p> <p>どのシーズンにも宿泊と温泉は2日目の活動として入るが、他に多様なプログラムを入れられる。例えば木地師の体験と、林業体験、食品関係、農業、料理などがある。1年を通して体験の多様化ができれば、リピーターの期待ができ、季節的な売りができることにより、規模の拡大を見込める。</p>
期間	2泊3日。1日目は阿波に向かう日。1日目は長旅で疲れるだろうため、活動は2日目の朝から夕暮れまで。3日目の朝に阿波を出発する。
必要なリソース (阿波の中から)	<p>現地にいる多くの人が特別な技能を持っている。竹を切ったり、地域の食材を使った料理や、木の伐採したり、アイテムを使って工作したりなど。このような人たちはプログラムの成功に不可欠である。実演してもらったり、技能や生活を体験させてもらえる。「もえぎの里」や「あなみ」と協力することがプログラムとして必要。可能であれば、このイベントをインターネットで効果的に宣伝するためのお金を必要とする。この費用の幅は10,000～500,000円であり、必要による。しかしどんな金額でも広告によりプログラムに興味を持ってもらえることが望ましい。</p>
必要なリソース (阿波の外から)	なし
コストと収入	<p>1人当たり33,900円。1日目宿泊費1泊当たり8,000～10,000円(2食込み)。</p> <p>2日目宿泊費、温泉1回、「あなみ」で昼食込み：20,000円。最大増えても3,000円。残りは運営と地域への資金として分配される。33,900円という値段は心理的値段設定の戦略から決めた。</p>
学生が貢献できること	<p>もしこのプログラムが起こったとするなら、まず初めのステップは、自分でやってみて、プログラムが実際に可能かどうか、自分の体験を観察することである。次はマーケティング戦略を作り、人々を魅きつけるために異なった方法で宣伝することである。これは自分が持つ役立つ技能であり、外の広告機関や会社を利用するより安く済ませることができる。</p>
考慮すべきリスク等	<p>乗り物がかかわることにはいつもリスクを伴う。最悪の場合死ぬ可能もある。その他では夏場の熱中症が大きな問題であり、水分補給の時間を十分にとる必要がある。</p>

#### 4. 阿波のグランピングビジネス

主なターゲット層	小さな子供のいる家族、キャンプ初心者、都心部からの若者
企画内容	<p>このプログラムは阿波の自然を利用して、地域創生を試みるためのものである。</p> <p>対処しようとする課題は高齢化問題である。阿波での2日間の滞在中、私は子供を1人しか見なかったため、この問題はかなり深刻であると感じた。</p> <p>阿波の少子高齢化問題が解決されれば、他の問題も解決できるだけの活気が</p>

	<p>生まれるかもしれない。よってこのプロジェクトは阿波に若い人を集めて次の世代を作り出すことに焦点を当てている。</p> <p>グランピングとは簡素な宿舎や施設を利用するキャンプのことで、一般的なキャンプよりも豪華なもののことを指す。グランピングビジネスによって、阿波は多様な層の観光客を集まることができる。例えば、グランピングの華やかで非日常的な見た目によって、多くのInstagramユーザーやキャンプ初心者を楽しませることができる。また、将来自分の子供を自然に囲まれた田舎で育てたいと考えている人々にとっては、非常に魅力的なツアーとなる。</p>
期間	2-3日
必要なリソース (阿波の中から)	協力者(警備員、受付、会計、建設、etc.)。道具や設備、ウェブ作成の初期投資。建設自体に関しては阿波の住民の手先の器用さや祭りの準備で培った技術を応用する。
必要なリソース (阿波の外から)	特別阿波外部からの協力は必要ないと思われるが、他社とのリース契約や宣伝の協力などがあるのが好ましい
コストと収入	初期投資としてテント、ベッド、その他の設備が挙げられる。初期投資を可能な限り安く抑え、ビジネスが安定して収益を得られるようになってから必要な設備をアップグレードしたり、新たに加えていくのも良いかもしれない。収益は労働者、維持費、宣伝費などに充てることとする。
学生が貢献できること	このビジネスの目的は、阿波に次の世代を形成することで、高齢化問題を和らげると同時に地域創生を目指すことである。自分は都会に住む若者として、都心部に住む若者をどのように魅了し、阿波市に呼び込むかを一緒に考え、協力したい。
考慮すべきリスク等	阿波の文化の消滅。もし当プロジェクトが成功して多くの人々が阿波に来るようになれば、阿波市民が長年かけて築き上げた文化が薄れてしまう可能性がある。また、移住者のために住宅の数を増やす必要があることで、木々を切り倒すなどの自然破壊の可能性もある。

## 5. 阿波で伝統生活+木地師体験

主なターゲット層	<p>日本文化を深く知り経験したい人(既に有名な観光地を訪れた人は人気の日本文化には満足しないため)。健康で、旅行保険に入ること、10歳以下の子供は両親の同行が必要(山のハイキング、伝統作品制作などの危険な行動を含むため)。参加者が10人以下の場合はイベントはキャンセルとなる。</p>
企画内容	<p>このプログラムは木地師の生活様式と阿波の伝統的生活様式を提供するものである。</p> <p>(1日目)</p> <p>10:00 開会式とワークショップ</p> <p>13:00 あなみでランチ</p>

	<p>14:00 古いおもちゃを作って遊ぶ、振り返り</p> <p>16:00 農業体験</p> <p>18:00 バンガローで BBQ</p> <p>20:00~ 自由時間</p> <p>(2日目)</p> <p>7:30 起床</p> <p>9:00 伝統的工芸</p> <p>12:00 あなみでランチ</p> <p>13:00 山でハイキング</p> <p>17:00 体育館で閉会式</p> <p>このプログラムはハイキングと地域の農場製品を使うため、夏・秋に開催するのが最適であろう。悪天候の場合、計画を変更する。初日のアクティビティは合羽を着て行う。しかし、2日目のハイキングは実行できない。そのときは、地域の人によってアロマセラピーを行う。</p> <p>初日はワークショップを開く。木地師の歴史と阿波の古い生活様式の説明。これは参加者に阿波の雰囲気を感じてもらい、日本での木地師が何なのかを伝える。参加者は地域のお米、野菜、川魚などを使ったランチを食べる。その後、体育館で昔のおもちゃで遊ぶ。阿波には多くの農作物があるので、これらを耕すことは参加者にとっていい思い出になるだろう。加えて、その野菜を BBQ で使う。2日目は、参加者は伝統工芸を作る。私が花祭りの道具を地域の人と作っているとき、竹製品もまたこの地域の名産品であると聞いた。これもプログラムに取り入れたい。山のハイキングは歩くだけでなく、森林の歴史を説明することが重要である。</p>
期間	2日間
必要ナリソース (阿波の中から)	多くの人の協力を必要とする。阿波の歴史を教えられる人、伝統的工芸を教えられる人、農作業や野菜の収穫方法を教えられる人、山の周りを案内してくれる人。伝統物を作る際の設備は花祭りの個々のグループから借りる。
必要ナリソース (阿波の外から)	ハイキング用の衣服、カッパ、防水ブーツ、BBQ用の季節の食材
コストと収入	一人当たり 8,000 円(10歳以下は半額)(宿泊費用、ランチ2回、BBQ、工作費込み)全ての収入は関わった人々に分配される。基本の謝金は一時間 1,000 円。例えば、ワークショップの先生で古いおもちゃの使い方を教えた人、作り方を教えた人、ハイキングのガイド、農場を提供した農家など。
学生が貢献できること	外国人旅行客が来た時、彼らのサポートができる。もし地域住民が納得しなければ、アンケートとマーケットリサーチを作ることができる。
考慮すべきリスク等	伝統的な工芸の過程や、ハイキングの間にけがをする恐れがある。

## 6. 阿波で自然と地域に出会う1泊2日

<p>主なターゲット層</p>	<p>主に3つのカテゴリーを対象とする。</p> <p>1. 退職者：十分な時間とお金がある。1人で生活する人も多く、十分に人と話す機会がない。既に配偶者を亡くした人には新しいパートナーや友達との出会いともなり得る。田舎暮らしを好む傾向がある。</p> <p>2. 小学生～高校生：SNS疲れになりやすい世代。知り合いがいない場所でリフレッシュしたい人も多いのでは。</p> <p>3. 大学生：長期休暇があり、有名な観光地に飽きた人たちを対象にする。</p>
<p>企画内容</p>	<p>(1日目)</p> <p>①神社-②滝-③温泉-④バンガロー；アイスブレイク（導入）と休息メイン</p> <p>(2日目)</p> <p>①釣り(学生)，②あなみで食事レストラン(大人)-②地域の人々との交流(パーティー)</p> <p>阿波に向かうのに時間がかかり、日帰りでは十分に阿波を楽しめないため、1泊2日のツアーとする(岡山駅から阿波地域に着くまでに快速電車を使って約2時間)。1日目は、長旅の疲れを癒せるように、十分な休憩をとれるプログラムが適当。また日帰りの旅行では、旅行客が落とすお金も少なく、バンガローなどの資源も活かすことができない。阿波で貰ったチラシ“秋のみまさかスローライフ列車”という旅行プランは阿波エリアを電車に乗ったまま旅することができるものだが、自然の中を歩かないのはもったいないと思った。阿波にはもっと利用すべき資源があると思う。もし選択肢が多すぎれば、(日帰り、1泊、2泊など)同じ日に参加できる人数が減ってしまい、参加者が新しい仲間を作る機会を失ってしまう。</p> <p>もしより長く滞在したい人がいれば、個人的に滞在することは可能である。健康ツーリズムについてのニュースを聞いた。一人で運動をし続けることは難しいが、グループだと続けられるということだ。旅行の間、参加者は森林の中を歩くことができ、これは精神と身体ともに健康にするだろう。</p> <p>同じような旅行プランはよくあるだろうが、このプログラムで重要なポイントは、地域住民の人と会話できる時間が設けられているところである。プログラムの間に、地域の人が参加者に阿波の魅力や住まい、子育て、学校、職場、病院、店舗など、参加者の知りたい情報を教える時間がある。参加者の中には、阿波での生活に興味を持つこともあると思うので、重要な情報を知ることによって実際に住もうとする可能性を高めることができる。現地住民によれば、阿波での1か月の生活体験なども考えているそうなので、もしこのプログラムがうまくいけば、このアイデアを繋げることもできる。</p> <p>(代替案)</p> <p>1. 魚釣りかあなみレストランかの選択（特に大人は釣りよりも高級料理を好む可能性があるため。）</p> <p>2. キャンプファイヤーや、落ち葉で焼き芋を作る（冬の星観察は寒いため）</p> <p>3. Air B&amp;B またはホームステイ（参加者の人数によって調節）</p>

	<p>4. 好みによって1つのイベントを自由時間に（参加者の参加したくない計画があれば）</p> <p>5. 地域伝統品の製作体験（阿波での特別な体験を増やすため、田舎体験の機会）例：風車製作、藁で編み物製作。伝統品を売るのはコストのほうが高くなるリスクがあるが、製作体験を売るのはコストが見合おうと思う。</p> <p>6. 建物の中でできるイベント（雨などの場合）例：地域の魚を目隠しした状態で食べて魚の種類を当てるゲームなど。野菜や、ジュースや味噌でも可。</p> <p>ポイント：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域試験を最大限に活かす</li> <li>2. ゆったりとした時間の流れ</li> <li>3. 新しい資源を必要としないため、無駄なお金がかからない</li> <li>4. 環境に変化を与えない</li> </ol>
期間	<p>1泊2日。1ヶ月に2回程度。</p> <p>学生向けに5, 8, 9, 月(病みやすい時期?)、大学生向けに2, 3, 8, 9月(長期休み)、大人向けに10, 11, 3, 4月(紅葉や桜の綺麗な時期)。</p>
必要なリソース (阿波の中から)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然資源：河井神社、阿波自然森林；滝、紅葉、阿波の溪流釣り場</li> <li>2. 施設：阿波温泉、バンガロー、あなみレストラン、阿波公民館</li> <li>3. 人：バス運転手、地域ガイド、地域住民（参加できるだけ）</li> </ol>
必要なリソース (阿波の外から)	電車、拡散用 SNS、ツアーコンダクター
コストと収入	<p>ツアーコスト：1,500円（大人）、1,000円（高校生大学生）、500円（小学生中学生）、その他コスト：バス、電車、バンガロー、魚釣り、施設費用は機関が設定する費用に従う。</p>
学生が貢献できること	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全ての施設とつながる。</li> <li>2. ツアーのスケジュールを作る、</li> <li>3. 地域住民と参加者の会話をしやすい環境を作る、</li> <li>4. 広告活動、SNS やチラシ作成</li> </ol>
考慮すべきリスク等	<p>ツアーの赤字。</p> <p>十分でない影響力。一方で、地域資源を最大限に生かすことができ、新規移住者の獲得や、地域の人々が外の人と関わる機会が増えることにより阿波がより楽しい場所になることが期待できる。</p>

## 7. コミュニティ社会的企業を共に創る (GCC-SE)<sup>3</sup>

主なターゲット層	<p>日本政府観光局の公表した情報を基に、滞在期間、消費行動、国籍や年齢でインバウンド観光客を区分し、本プロジェクトのターゲットはアジア、ヨーロッパ、アメリカからの20代から30代の旅行客とする。理由としては、冒険への熱意が一番熱く、ホームステイプログラムをする上で適した年齢だと</p>
----------	--

<sup>3</sup> タイの社会的企業（社会的目的とビジネスを両立させる企業=Social Enterprise）でコミュニティ・ベースド・ツーリズムを支援する Local Alike を範としたもの。（Local Alike ウェブサイト：<https://localalike.com/>（英語））

	<p>考えられるからである。</p> <p>その中でも、主なターゲットは中国、香港、そして韓国である。これらの国は日本国内の観光客の割合や、滞在中の消費額の多く占めるからである。さらにプロジェクトの対象とするもう1つの主要なターゲットグループは、米国、英国、およびオーストラリアからの旅行者である。このグループの消費支出は多く、滞在期間も東アジアや東南アジアからの滞在よりも、1週間または2週間長い。また、平均して、これらの国からの旅行者の80%は、長野や広島などの美しい自然と豊富なアウトドアアクティビティ、文化のある県を好む。</p>
企画内容	<p>(背景)</p> <p>持続可能なコミュニティの運営を通じて、長期的には、文化と知恵の継承や、移住、高齢化社会に焦点を当てた農村の再生に取り組むことを目指す。これらの問題が阿波住民の生活の質に大きな損害を与えている。阿波市民の社会的幸福は、以前は社会的な集会の場所だった居酒屋など、いくつかの社交空間が閉鎖されるとともに悪化している。阿波市のコンビニで、レジの隣にある木製のテーブルで会話をしている中高年の方々を見かけた。阿波市民のソーシャルスペースはかなり限定されている。さらに、現在500人未満の住民しかいない村である阿波では、住民の転出も深刻な問題である。さらに、市民の高齢化や、それに伴う阿波の文化や伝統の消滅も問題である。</p> <p>上記の3つの要因が、阿波市のコミュニティの衰退を引き起こしていると考えられる。このプロジェクトを通して行う経済的および文化的共有の機会、これらの問題を改善するのに役立つ。</p> <p>観光を市場性のある資産として活用し、より持続可能で回復力のあるコミュニティを共同で作成するよう努めている、オンラインコミュニティベースの観光プラットフォーム。目標としては、ホームステイプログラムを通して野外活動を行い、自然を鑑賞し、文化に浸り、そして交流する機会を作ることである。</p> <p>(ビジネスとしての手順)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 価値提案：厳選された本格的な現地での体験を顧客に提供する。ターゲットは、20代半ばから30代で、探検と冒険に興味があり、異文化間の認識と交流に興味がある人である。このプログラムは、ホームステイ体験、地元で開催されるワークショップ、地元のフェスティバルへの参加を組み合わせたものである。</li> <li>2. プロモーションのチャネル：メインのオンラインWebサイトでのプレゼンス、ソーシャルメディアでの広告およびメディアプレゼンス：Instagram、Facebook（予約プラットフォームとしても利用可）</li> <li>3. コスト：運用コスト-Webドメインの料金とメンテナンス（=100ドル、20ドル/年）マーケティング費用-総利益の3~5%</li> <li>4. 主要なリソース：ホストファミリー、地元の主催者、レストラン</li> </ol>



	<p>5. 目標を達成するまでの期間：約2年あるいは6季節のホームステイプログラムで目標の達成度を評価する。</p> <p>目標は、1) 損失なしに事業を運営し続けること 2) *4QOL で十分なコミュニティ資金を生み出すこと 3) 4種のQOLの改善(4QOLの領域：アクティブ&amp;健康的な生活、社交空間、環境の維持、およびコミュニティ企業サポート)</p> <p>6. プログラム実施：</p> <p>旅行者はオンラインで利用可能なパッケージのいずれかを選択し、最低なホストファミリーを見つけながら旅行の詳細をプランするために連絡する。その後、ホストファミリーの準備を通して調整し、サポートする。また、地元企業やエコビレッジあばなどのNGOと協力して、地元経済の循環を促進することも考えている。</p> <p>7. 資金フロー：運営費は支払いの30%、ホストファミリーの資金は70%。</p> <p>しかし、ホストは地域のQOLを改善するために、コミュニティの資金に総利益のいくらかを寄付する必要がある。QOLの各エリアでは、コミュニティ資金を使用して、スペースの社交、コミュニティイベントの開催、および美しく清潔な環境を維持するための未使用のインフラストラクチャを改善する。</p>
期間	—
必要なリソース (阿波の中から)	<p>(一例として) 考え得るパートナー</p> <p>交通・旅行者向けの自動車運転サービス：エコビレッジあば</p> <p>旅行者の食事：あなみ</p> <p>宿泊施設：ホームステイホスト：</p> <p>味噌/餅の体験：女性の生産グループまたは地元の団体</p>
必要なリソース (阿波の外から)	津山市よりコミュニティ開発プロジェクトに資金を提供する補助金/助成金 システムエンジニアとホストファミリーの収入はプログラムの収入から得る
コストと収入	<p>1泊10,000～15,000円(すべてのアクティビティと交通費を含む)</p> <p>8,500円～9,500円(宿泊+アクティビティ)、価格は参加人数によって異なる。</p> <p>平均的なツアーパッケージでは、1人1泊あたり約100～200ドルが課金されるが、この価格にはすべて含まれているため、リーズナブルで手頃な価格であると考えられる。</p> <p>20代半ばから30代の旅行者をターゲットにしているのは、このグループがより高い支出意欲を持っていると考えられるからである(平均旅行者の2倍であるというデータがある)。また、旅行後の広告塔としてインフルエンサーまたはトレンドセッターになる可能性もある。</p>
学生が貢献できること	前述したように、阿波のアイデンティティを構成する文化や伝統を維持するための取り組みとして、阿波の観光など、持続可能なコミュニティベースを利用する。このプログラムを行う上で、我々は阿波の窓口として機能し、

	<p>それを世界の他の地域と結びつけ、促進することが重要だと思う。このオンラインコミュニティベースのプラットフォームが、阿波を世界中の人々とつなぐ架け橋として機能し、地元の生活を体験するための玄関口として役立つことを願っている。日本人は、異文化間の交流やコミュニケーションの経験が乏しい。このプロジェクトを通して、世界の相互理解やオープンマインドの精神を促進することができる。阿波の住民はこの変化を受け入れていないかもしれないが、私は、阿波で素晴らしい人々を見た。その人たちはホストファミリーとして、素晴らしいホスピタリティを発揮してくれるはずだ。このオンラインプラットフォームは、旅行者とホストの両方が新しいつながりや、異文化体験を楽しむことができ、最終的にお互いの文化の違いや類似点から学ぶことができる場所にしたい。</p>
<p>考慮すべきリスク等</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホームステイの興味を測定する：ホストファミリーはこのプログラムの中核であるため、ホストファミリーとなってくれる家庭を探さなければいけない。しかし、十分なホストファミリーを集められない場合は、代わりに宿泊施設を提供する代替案を探すこととする。この選択肢は、ホストファミリーと旅行者の間の信頼の問題および不満を取り除くことができる。さらに、このプログラムの利点を地域住民に広めることは、完全に持続可能なコミュニティの作成において重要である。</li> <li>2. 収益の創出と財務的収益性（持続可能性）：懸念事項は、年に3回だけ季節的に開催されるホームステイプログラムが、十分な収入と利益を生み出せるかどうかだ。このプログラムの運用費自体をも賄わなければいけないため、損失は可能な限り抑えなければいけない。しかし、他の村や農村地域に拡大し、ホストファミリーのネットワークを確立して、より多くの旅行者をターゲットにすることが望ましい。そうすることにより、社会的企業の持続可能性を確保でき、長期的には投資の成果が期待できる。</li> <li>3. 市場の確立とプロモーション：もう1つの大きな懸念は、ターゲット市場にある。これは、若い大人の旅行者だが、それだけに限定されない。第一に、世界の動向に基づいて旅行者の行動が変動しているため、このターゲットグループの市場への参入は困難である可能性がある。ローカルな場所でホストファミリーと一緒に暮らすことはあまり注目されない可能性もある。旅行を促進するためにSNSを介して広告を設定することもできるが、かといって人々の注目を得られる保証はない。さらに、若い大人の旅行者は、友人やソロとのプライベートツアーを手配する傾向がある。つまり、このグループがこのホームステイのプログラムに全く魅力を感じなかった場合、別のターゲットを考える必要がある。</li> <li>4. 目標を達成するまでの期間：最低1年。これは、1年間に3つの季節ホームステイプログラムを実施することで、このプログラムの有効性と成功の可能性、およびそれに価値があるかどうかを示す良い指標となる。1年という期間は、どのくらい多くの旅行者を引き付けるかを測定するのに適した期</li> </ol>

	<p>間である。これは、将来の投資およびマーケティングのための測定ツールになる可能性がある。1年未満の場合、プログラムを比較して評価を行うことができない。判断を下すための十分な評価やデータがないからである。</p> <p>5. 影響を測定する指標：短期および長期の影響の両方を測定する適切な指標を選択することは、指標の妥当性、信頼性、および感度を確保する必要がある、困難である。プログラムの影響を測定する指標として、最も重要なのは、活動からの収益/利益の計算、阿波の QOL における改善の定量的または定性的測定、および利害関係者の全体的な満足度である。</p> <p>6. 市場の競合他社：WOOF / Air-bnb / agoda、booking.com、expedia などの主要なオンラインホテルプラットフォームとパッケージプログラム</p>
--	--

## 8. 新しいセレブ番組

主なターゲット層	国内外の TV 又は映画制作会社
企画内容	<p>地域が映画やテレビによって世界で有名になり多数の観光客を魅了したケースが多くある。阿波もテレビや映画を通してそのような場所になるチャンスはある。阿波は素晴らしい自然があり、個性的な祭りや文化があり、優しいコミュニティとおいしい食事があり、これらの資源を映画やテレビ会社に紹介し、映像を撮るために阿波に招待する。それに加え、無料の宿泊設備をキャストに分配することができれば、キャストを安めのコストで惹きつけることができる。映画が公開されたら、阿波の自然の美しさと特徴は世界中に広まるだろう。これは大きな意味のある発信である。自然の景色とストーリーとの組み合わせはより聴衆を魅了するだろう。この種類の宣伝は永続的な効果がある。阿波の魅力は季節により異なると思われるため、原稿によってどの季節がより適切か選ぶことができる。どの季節も放送されるべきである。</p>
期間	内容により数日から数週間
必要なりソース (阿波の中から)	<p>運転手と車はクルーをいろんな場所に連れていくために必要である(クルーが車を持っている可能性も)。阿波にはスーパーやレストランが少ないので、地域の人々が彼らの食事を助ける必要がある。無料の宿泊設備もまたクルーの資金が不足している場合、惹きつけるのに有利になる。知識において、このプロジェクトに関わる人は阿波のどこを撮影するのか、また阿波のどの側面が魅力的に映るのか、正確に知っている必要がある。これは阿波の宣伝の助けになる。お金は食費や宿泊費によるものであるため、もし、宿泊施設や飲食店など地域の人がこのプロジェクトを手助けすることができたら、それほど費用は掛からないと思う。</p>
必要なりソース (阿波の外から)	映画、テレビの制作クルー

コストと収入	もし阿波が宿泊設備と食事を提供する必要があるれば、そのコストが必要。もしクルーに資金が十分にあり、食費と宿泊設備を自分たちで賄うことができたなら、プラスのコストで運転手付きのガイドや、食事と宿泊設備でさえ、阿波のために追加で獲得できる。収益とビジネスの機会を見れば、地域の住民ももっと手助けをしてくれるようになるかもしれない。もし地域への収入があれば、一部がこのプロジェクトに充てられる。
学生が貢献できること	私は多数の成功事例を挙げることができ、そしてそれらから、どんなプログラムと場所が阿波のいいところを伝えられるかを考えることができる。私や友達は映画に登場した場所に旅行をするのが好きなため、私のお気に入りの阿波地域をその1つにするのを手伝えたらとても嬉しい。阿波の良さが世界中に知られることを願っている。
考慮すべきリスク等	もしテレビや映画がうまく機能しなかった場合、これらはあまり公表されないだろうが少なくともより多くの人に阿波を知ってもらえる。もし映画やテレビが阿波の魅力を捉えなければ、外部の人に阿波のアピールは伝わらないだろう。この利益はリスクを上回る。なぜなら映画やテレビや漫画が放送され続けるだけ阿波に惹きつけられる人がおり、宣伝効果は永続的である。

## 9. 阿波の食と模擬喧嘩祭り（花祭り）ツアー

主なターゲット層	国内外からの観光客
企画内容	このプロジェクトは2日間の日程で行われ、国内外のあらゆる観光客を対象とする。2日間の日程は以下の通りである。 (1日目) 阿波市到着、あなみで食事、阿波地区中央部で観光、地域への訪問 宿舎到着、就寝 (2日目) 起床(朝食、シャワーetc.)、模擬喧嘩祭り(花祭り体験) お別れ会、食事、阿波を出発
期間	2日間
必要なりソース (阿波の中から)	多くの協力者、イベント開催のための道具、宿泊施設、外国人のための通訳、主催者、移動手段、食べ物や飲み物、怪我に備えた医療品
必要なりソース (阿波の外から)	宣伝、ボランティア、主催者、労働者、資金、医療品
コストと収入	初期費用や維持費が高額になるおそれがある。 当プロジェクトによる収益は維持費、それぞれの地域、協力者などに配分される。
学生が貢献できること	SNSを利用した宣伝など

考慮すべきリスク等	模擬喧嘩祭りによるけが人。また、当プロジェクトには、悪天候や資金不足により、実際には実現できない内容も含まれている可能性がある。また、安定して同じクオリティのイベントを開催することが難しいケースも考えられる。
-----------	--

## 10. 阿波のガイドブック作成プロジェクト

主なターゲット層	阿波を訪れる観光客
企画内容	<p>阿波地区は、人口の減少、高齢者の高齢化問題などの社会的問題を依然として懸念している。ガイドブックを作成することで、それらの問題改善に取り組むことができる。</p> <p>このプロジェクトは阿波の魅力的な部分を外部に伝えるために行われる。内容としては阿波のロケーション、観光スポット、阿波地区の自然や文化などである。阿波はたくさんの自然を始め、多くの魅力的なものを持っているが、未だ知名度が極めて低いため十分な観光客を集めることができていない。そこで、阿波のガイドブックを作成し、岡山県民からの知名度を向上させることでこの問題の解決に取り組みたい。また、このプロジェクトを通して、これから阿波を訪れる学生にとっても、阿波を知るための良い機会になると思われる。</p>
期間	—
必要なリソース (阿波の中から)	阿波地区での協力者、カメラマン、阿波への理解度が高くガイドブックの編集ができる人
必要なリソース (阿波の外から)	ガイドブックの印刷、ガイドブック作成のための道具、カメラマン、デザイナー
コストと収入	<p>コストの大半は作成に必要な文房具類などの道具である。しかし、それほど大きな額にはならないと思われる。</p> <p>また、写真や文書の印刷代に関するコストも発生する。初期投資としては、ガイドブック少数印刷に当たる費用になると考えられるため、ある程度安く抑えられる。</p> <p>プロジェクトの維持費としては、ガイドブックの印刷費が主な費用となる。当プロジェクトの収入は、協力者、カメラマン、編集者などの謝礼に当てられる。</p>
学生が貢献できること	当プロジェクトが成功すれば、阿波地区の詳しい情報を観光客などに宣伝することができる。初期投資や維持費も安定して安い額なので、市外からくる観光客へ安いコストで阿波の魅力を宣伝することができる。
考慮すべきリスク等	ガイドブックを作成するにあたって、他との競争は避けられない。しかし、もし本プロジェクトによって、阿波の住民と協力してガイドブックを作成することができれば、より信頼性のあるものを作れる。

## 11. 阿波ミュージックフェス (Aba village music festival)

主なターゲット層	日本の若者
企画内容	阿波の人々は阿波にたくさんの人が訪れてほしいという願いを持っているのではないかと考える。私は、その音楽祭を阿波で開くことが阿波の人々を喜ばせるのではないかと考える。特に若い学生を招待することが良いのではないかと考える。そのために阿波で2日間にわたる音楽祭を開催する。会場は阿波中心部の旧小学校庭および体育館を使用する。
期間	2日間
必要なリソース (阿波の中から)	この音楽祭は阿波が持っている多くの現存の強みを生かすことができる。それゆえ、私達はよい人材とよく構築されたネットワークを必要とする。私達は音楽業界の人と知り合っている人を探し出して、その人に音楽祭にボランティアのようなかたちで出てもらえるようなアーティストや音楽バンドを集めてもらうことが必要である。このように、私達はいろいろな人を納得させ協力を得る必要がある。
必要なリソース (阿波の外から)	音楽業界出身の人、ボランティアで協力可能なプロの音楽家
コストと収入	この音楽祭はお金をかけずに行うことを基本としているため、かかる費用をできるだけ切り詰める必要がある。全てのアーティストが無報酬でパフォーマンスをすることになる。主な費用のかかることとしては、ステージの設置、客が利用するためのシャトルバス、組織の運営費などがある。資金調達の方法としては、出資者を募る、食料貯蔵のための借用スペースを設ける、チケットを売りだすなどがある。その利益は阿波地域の課題を解決するために寄付する。
学生が貢献できること	私は全ての組織の仕事をこなすことができ、DJの友達を連れてきて、室内の場所に関しては上質な音楽空間をつくり出すことができる。私は音楽が大好きで、将来テクノパーティーの場を開きたいと考えているので、これは自分にとって素晴らしい経験となるであろう。
考慮すべきリスク等	考えられるリスクとしては、阿波の人々や音楽家との信頼関係が構築されていないことに加え、阿波の人々にこの企画が賛同されるかは分からないことである。騒音等を好ましく思わない住民の方々もおられると思われ、配慮が必要となる。

### b. 観光以外の企画

## 12. 高齢者 × 公民館 × インターネット = QOL<sup>4</sup>の向上 + ネット市場の拡大

<sup>4</sup> QOL=生活の質 (Quality of Life)

主なターゲット層	日本にいる 3,500 万人以上の高齢者。もしこれら的高齢者がネット市場に買い手として参入すれば、市場拡大に大きく貢献できる。
企画内容	<p>高齢者にも使い易いインターネット通販サービスを作るべきである。しかし、高齢者にとってインターネットを使いこなすのは極めて難しいのが現状である。</p> <p>そこで、まず高齢者を対象とした「インターネット講座」を開催する。阿波市内に公民館や集会所が点在しており、そこで講座を開催することで、多くの高齢者が気軽に足を運ぶことができる。</p> <p>これにより高齢者がネットショッピングの使い方を理解することができれば、高齢者が現在直面している移動手段の問題などを解決することができる。私は都市部から離れた場所で生まれ育ったため、高齢者とのコミュニケーションの取り方を他の学生と比べてよく知っている。高齢者は新しいものや新しい人を受け入れがたく感じることが多いが、もしお互いをよく知ることができれば、このプロジェクトは成功すると思われる。</p>
対処すべき課題	<p>私が大畑集落を訪れた時、現地の方々が買い物に行くための移動手段がないために苦労しているというお話を聞いた。</p> <p>このプロジェクトによって、買い物に行くことが困難な高齢者を助けることができる。この問題を解決することで、阿波の住民の QOL を大幅に改善することができ、ネットショッピング市場を拡大することもできる。</p>
必要なリソース (阿波の中から)	<p>インターネットの使い方を適切に指導できる人材(阿波の住民であれば、高齢者にとってコミュニケーションが取りやすいと思われる)。</p> <p>インターネットを利用するためにパソコンやスマートフォンなどのデバイスが必要だが、多くの阿波の住民は既に何かしらのデバイスを所持しているため、初期費用はそれほど高額にならないと思われる。また、公民館や集会所をセミナーを開催する場所として利用することができる。公民館等は阿波内に点在しているため、公民館を使うことでセミナーへの参加が負担にならない。</p>
必要なリソース (阿波の外から)	<p>インターネットの使い方を熟知している人材。大学生に募集をかければ、コストを安く抑えることができ、学生にとっても貴重な体験となる。また、ウェブ作成にあたっては、出品者をはじめとする他の店との協力を募らなければいけない。</p>
コストと収入	<p>インターネットの使い方を伝授することで利益を上げられると思う。また、高齢者がネットショッピングを利用できるようになれば、家にいながら買い物ができる。もしこのプロジェクトが成功すれば、メディアからの注目も集めることができるかもしれない。そうなれば、メディア出演からも利益が得られることとなる。また、現在日本が抱える 3,500 万人の高齢者がネット通販の利用者になることで、市場拡大を図ることができる。</p>
学生が貢献できること	<p>私は都市部から離れた場所で生まれ育ったため、高齢者とのコミュニケーションの取り方を他の学生と比べてよく知っている。高齢者は新しいものや新</p>

	しい人を受け入れがたく感じることが多いが、もしお互いをよく知ることができれば、このプロジェクトは成功すると思われる。
考慮すべきリスク等	インターネットなどの使用に対して抵抗のある高齢者もいる。また、出品者を見つけるなどの作業は難しい。

### 13. In-A-Van (バンビジネス)

主なターゲット層	阿波の住民（特に高齢者）
企画内容	<p>阿波市民の生活の質の向上を目的とする地域企業。2つのフェーズで構成され、最初は配送サービスで（より少ないリソースで実施できるため）、後にヘルスケアサービスの開発に進展していく。</p> <p>In-a-van は主に2つのサービスを提供する。In-a-van デリバリー（配送）と In-a-Van ヘルスケアである。</p> <p>1. In-a-van デリバリー：バンでの配送は少なくとも1日前までに食品/日用品の注文を受注する。コンビニエンスストア等が商品を準備する。すべての配送が1回で完了するように、注文を受けてルートを設計する。顧客は製品の代金に加えて5~7%の配送料を支払う。</p> <p>2. In-a-van ヘルスケア：In-a-van は必要な健康器具をバンに装備し、これらを管理するために医療関係者を雇う。医師との予約は、タブレット/コンピュータ経由でバンで行われ、予約の修正も可能。緊急事態が発生した場合、バンに乗せて病院に向かうことも可能。また、In-a-van では月に1回、未使用の土地を使用してテントを作り、患者の診察を行うことも考えている。</p>
対処すべき課題	社会問題の取り組み：購買代理店、ヘルスケア（病院等）へのアクセスの需要。これらは、特に阿波のような高齢者のいる地域では深刻な問題となる。この問題を解決することは、阿波地区の生活の質を改善することも意味する。
必要なリソース （阿波の中から）	未使用の土地、施設、現地の運転手
必要なリソース （阿波の外から）	協力者（医学的バックグラウンドのある人、運転手、事務員）、予備のバン（使用可能）、健康器具
コストと収入	<p>初期投資：まず、コンビニ等の支店として発展し、そこで投資を受ける。政府からの資金を要求できる（ハイブリッド企業への発展の可能性）</p> <p>フェーズ1のコスト：バン（中古）：約300万円、人件費：30万円以上×2</p> <p>フェーズ2の追加コスト：バン（中古）：約300万円、人件費：30万円以上×2、健康機器：未定</p> <p>売り上げの分配：人件費、輸送費用、バン+健康機器のメンテナンス、広告費</p>



学生が貢献できること	毎月の検査イベントの手伝いや、注文の手配などを担当することができる。阿波は非常に平和な場所である。市民が生活必需品へのアクセスがないために、そのような素晴らしい場所心地よく住むことができないというのはとても残念なことだ。なので、私の能力が限られていても、私はコミュニティに貢献するためにどんな小さなことでも挑戦したいと思っている。
考慮すべきリスク等	費用・関連する規制等

#### 14. ビジネスコンペティション

主なターゲット層	ターゲットは新たなビジネスを始めたい人であり、その受益者・消費者は阿波の住民
企画内容	新たなビジネスを始めたい人にとって、阿波のような高齢化社会で自身のビジネスモデルを試すのは貴重な経験である。今日、日本は少子高齢化社会に変化しつつある。つまり、ビジネスターゲットを若者から高齢者に変化させることが重要である。そこで阿波市を、ヘアサロンやメイクアップサーピス、ネイルサロンなどを始めとする新たなビジネスを始めたい人へ「ビジネスを試す場所」として利用する機会を設ける。また、ビジネスだけでなく、出店のような形で専門学校生にも、彼らのアイデアを生かすための機会を設けたい。
対処すべき課題	阿波地域の労働力不足、知名度の低さ、ヘアサロンなどを始めるための機会が少ないこと
必要なリソース (阿波の中から)	出店を出すための場所を提供することと、出店者の商品を購入する
必要なリソース (阿波の外から)	新たなビジネスを始めたい人、それらの人が商品やサービスを提供する上で必要な道具
コストと収入	コスト：出店を作るためのコスト、材料費、宣伝費等 収入：それぞれの店の売上
学生が貢献できること	このプロジェクトは学生を対象に宣伝すべきだと思う。プロジェクトを実現することで、こういった製品が人々にとって魅力的であるかを知ることができる。
考慮すべきリスク等	もし若者が大人数集まって風紀や秩序を乱すことになれば、住民に不快感を与えることとなる。

#### 15. BGI プログラム (Bring People, Gather Money, Increase Opportunity)

主なターゲット層	市外からの観光客と阿波住民（需要を最大化するため、双方を対象とする）。
企画内容	目標：人を集める+お金をもたらす+雇用機会を増やす ここで「人々」を集めることは、単に訪問者を意味するだけでなく、既に阿波を離れた地元の人々を呼び戻すこともできる。これらのビジネスにより、

	<p>阿波では大きな雇用が生まれる。したがって、既に引っ越して、阿波を離れた地元の人々が、阿波に帰ってくる可能性もある。ビジネスは以下の3つである。</p> <p>1. 温泉事業（温泉観光）：競争力を低下させ、市場で比較的高い価格につながるため、阿波の温泉事業1つだけでは不十分である。独自の部分がないと、消費者は魅力を感じず、阿波に足を運ばないかもしれない。一般的な温泉だけでは十分ではなく、消費者にとって魅力的ではない。日本には既に多くの有名温泉スポットが存在する。したがって、温泉ビジネスに独創性を追加する必要がある。アイデア：阿波温泉ではすべての利用客が1つの浴槽を利用しているという事実から、混雑しやすいと考えられる。そのため、新たな浴槽として、ドクターフィッシュの施設を増やすのはどうだろうか。他企業がこのビジネスに協力してくれる可能性がある。これは再び人々（投資家と顧客）を阿波にもたらし、お金を集め（普通の温泉よりも多くのお金を生み出し）、観光客が来る機会を増やす。</p> <p>2. 野菜販売事業：阿波村の人々もっと仕事の機会を与えることが重要だと思われる。</p> <p>スローガン：地域の希少作物：「競争力を高めるため、ユニークになる」。</p> <p>アイデア：阿波で、他の地域であまり栽培されないような作物を栽培することは可能だろうか。そうすれば企業や消費者の阿波への依存度を高めることができる。例えば、ハロウィン用のカボチャなどの、特定の季節に需要が上がる作物を栽培する。また、阿波はすでに労働力が不足していて、高齢者の農家も多いため、その面でも非年次作物の栽培は効果的である。</p> <p>3. 朝市事業</p> <p>スローガン：人々を魅了するために何かを珍しくする</p> <p>アイデア：朝市事業（味噌、豆腐など、他の地元の製品も可）は、2週間/月に1回程度開催する。朝市の場所は、村の中央付近にある空き施設などの場所を活用することで、費用を抑えることができる。この場合、訪問者は阿波を散策して観光のようなこともできる。（今現在、阿波市がからの訪問者は、村の外側にあるあなみ等に立ち寄りだけかもしれないため、実際に村に入る人はほとんどいない。</p>
<p>対処すべき課題</p>	<p>1. 雇用の欠如</p> <p>2. 使用されていない空き施設・スペース</p> <p>3. 資金の必要性</p>
<p>必要なリソース （阿波の中から）</p>	<p>温泉（既存の温泉資源、同時に温泉エリアのサイズを拡大）/農地（作物の栽培用）/場所（市場の場所）</p>
<p>必要なリソース （阿波の外から）</p>	<p>財務および管理分野の専門家、農業機械、投資資金</p>
<p>コストと収入</p>	<p>温泉事業は比較的高いコストがかかるが、阿波の住民ではなく市外の投資家に協力を募ることができる。朝市と野菜の販売に関しては、その主なコンセ</p>

	<p>プトは元のリソースと既存のリソースを活用し、それらをより有効的に活用することであるため、大きなお金の投資は必要ないと考えられる。</p> <p>全体でおよそ 200 万円程度のコストを見込んでいる。</p>
<p>学生が貢献できること</p>	<p>キャンペーンを促進する：魅力的なポスターをデザインし、空港、駅、市役所などの公共スペースに掲示する。オンラインマーケティングの場所を設定する。野菜を販売するため、ネットショッピングプラットフォームを確立し、ソーシャルメディア（Twitter、Facebook、Line、Instagram など）と YouTube で宣伝する。</p>
<p>考慮すべきリスク等</p>	<p>温泉事業は、投資を必要とするため、必然的にリスクが高くなるが、3つのビジネスがリスクを分散することができる。</p>

## 16. 阿波ファミリーデー

<p>主なターゲット層</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 阿波近隣市町村のファミリー（主として津山市）</li> <li>2. 地元在住ファミリー及び住民もイベント参加、応援、またはボランティアとしてイベントに関わることができる</li> </ol>
<p>企画内容</p>	<p>阿波ファミリーデー（メインイベント2つ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前（約2時間）：ファミリーマラソン（旧阿波小学校、阿波八幡神社、もえぎの里周辺1~2km / スタート及びゴール地点は旧阿波小学校運動場予定）</li> <li>・午後（2~3時間）：子供向け花祭り（於旧阿波小学校体育館/ 花祭りの歴史の簡単な説明の後、イベント参加ファミリー、ボランティア及び地域住民が協力し花祭りの飾りを作ったのち小規模の花祭りイベントを行う）</li> </ul> <p>毎年秋に開催される実際の花祭りの宣伝にもなりうる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翌日イベント（マラソンイベント当日宿泊したファミリー向けとして）</li> </ul> <p>例えば、1. 森林エコツアー 2. 郷土料理クッキング教室 3. 釣り大会 4. 餅つき体験 など</p> <p>* 昨今の子供たちはインドアでゲームすることのほうが好きなのではと意見もあるが、小学生たちは同時にこのような楽しいイベントも大好きであると考えます（長期にわたる小学校でのボランティア活動を通して）</p>
<p>対処すべき課題</p>	<p>阿波滞在中に多くの地域住民が小学校の閉鎖について話していたことから、人々がもう一度子供たちの笑い声や笑顔を求めているのだと感じ、それこそが地域を活性化する大きな材料になると考えた。</p> <p>現在、阿波地区のみならず、多くの県北地域が人口減少の問題を抱えており県北最大の都市である津山市も例外ではない。</p> <p>地元企業とタイアップしてこのイベントを進めていくことは、地元企業と阿波を含む県北地域双方に有益であると考えます。（企業は、従業員家族に参加してもらうことにより、このイベントを福利厚生の一環として利用することができ、職場環境を良くすることにより従業員の離職を防ぐことができる）</p>

<p>必要なリソース (阿波の中から)</p>	<p>1. ボランティア  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント運営スタッフ</li> <li>・ マラソンコース途中に設ける地元食材の試食を提供するスタッフ</li> </ul> →地元食材の宣伝効果も。またスタート、ゴール地点である旧小学校グラウンド周辺で、当日販売も可能</p> <p>2. 既存の施設の利用 (小学校体育館など)</p> <p>3. 収益  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加費/一家族当たり 1,000 円前後 (ただし企業からの参加者については企業負担とする)</li> <li>・ 阿波特産品の販売収益</li> <li>・ 津山市からの補助金</li> </ul> </p> <p>4. エキスパート  花祭りの歴史について (花祭りイベント)  森林について (森林エコツアー)  郷土料理について (郷土料理クッキング)  釣りについて (釣り大会) <span style="float: right;">など</span></p>
<p>必要なリソース (阿波の外から)</p>	<p>1. ボランティア  主として近隣市町村の中学生、高校生</p> <p>2. 協力会社  小さな子供がいる若い世代の従業員を多く持つ地元企業  (参考)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 株式会社ナンバ: 従業員 750 名</li> <li>・ パナソニック AVC サービス: 従業員 250 名 (ただしパート従業員を除く)</li> <li>・ 津山慈風会: 従業員 1000 名以上</li> </ul> * 協力会社は従業員家族に福利厚生として参加を呼び掛けるとともに協力を金を支払うこととする</p>
<p>コストと収入</p>	<p>全体としてイベントに必要なコストはそれほど高額にならないと予想される (既存施設も利用できるため)</p> <p>1. マラソンコース上で提供される試食用地元食材、加工品のコスト  →将来にわたる宣伝効果も考え、商品販売の利益でカバーする</p> <p>2. 花祭りのための飾りを作る材料のコスト  →企業からの協力金、参加費でカバーする</p> <p>* 利益分配について  →公共の利益になることに使用されるべきでは、例えば</p> <p>1. あば商店内に薬局を設ける</p> <p>2. 阿波八幡神社のメンテナンス  地元住民にとって大切な場所であるとともに、昨今の神社ブームを受け、若い女性観光客の増加も期待できる</p>

	<p>3. 地元特産品のパッケージの工夫</p> <p>若い女性観光客をターゲットに、“かわいい”を意識したパッケージに</p>
学生が貢献できること	<p>若い学生とは異なる私の状況に対し、多くの地元住民の方（特に私と同年代の中年女性）が興味を抱かれていた。</p> <p>私たちの共通の話題、子育てや健康の問題を話すことによって、彼ら彼女らはただ単に穏やかな生活を望んでいるのだということを痛感した。</p> <p>活動を通じて、私は自分の立場が、若い学生たちと、特に中高年の地元住民とのつなぎ役として役立つことがありうるのではと感じた。</p> <p>若い仲間たちから学んだことも多くあった。彼らが純粋に阿波の良さを語る態度は、阿波の将来に対し憂う地元住民にとって希望となったのでは</p>
考慮すべきリスク等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐車場の不足について</li> <li>→協力会社はイベント参加従業員に対しバスをチャーターし、マイカーでの来場を減らす努力をする/ 臨時バスや臨時駐車場を用意する</li> <li>・一年限定のイベントなのか→毎年恒例のイベントにすべきである</li> <li>・どのようにイベントを宣伝するか</li> <li>→じゃけん、タウン情報岡山などのコミュニティ誌への情報の掲載</li> <li>* より多くの協力会社を見つけることがこのイベント成功の鍵となるとおもわれる</li> </ul>

## 17. 岡大ディスカバリー生のフィールド研修

主なターゲット層	岡山大学ディスカバリープログラムの新入生
企画内容	<p>ディスカバリー新入生を対象とするオリエンテーションのための研修旅行</p> <p>→岡山大学からの援助を受け（可能であれば）、阿波村にて2～3日のオリエンテーションを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイキング（阿波の立地を生かして）。地域住民にも参加してもらい学生のサポートをお願いする</li> <li>・チームワークを必要とするこれらの活動を通して学生たちは学生同士のみならず地域住民との相互理解を深めることができる</li> <li>・大学生による地域住民を対象としたサポート：高齢者に向けての健康診断や必要とされる保健サポートあるいはその手伝い</li> </ul>
対処すべき課題	<p>阿波滞在中、阿波の人たちはもっと多くの方が阿波を訪れてくれることを期待していると感じた。学生たちの訪問で阿波の人たちに喜んでいただけるのではないかと思う。実際の健康診断などの活動が住民の方々（特に高齢者）の健康的な生活に役立つことを期待する。</p>
必要なリソース （阿波の中から）	<p>学生たちの宿泊場所</p> <p>→可能であれば民泊させていただけるお宅を募る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生たちはより地域の事を理解することができる。また、活動中（ハイキング）は住民の方々にサポートをお願いする</li> </ul>

必要なリソース (阿波の外から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山大学保健管理センターの協力</li> <li>・学生の阿波までの交通手段を考えることも必要</li> </ul>
コストと収入	コストに関しては検討が必要であるが、学生から参加費を集めることも可能では(1,000円程度)。参加費は、交通費、宿泊費及び食費などに充てられる
学生が貢献できること	<p>研修中、ディカバリーの2,3年生がチューターとして参加する。</p> <p>この研修は、オリエンテーションの意味だけではなく、新入生にとって友情を育む助けとなり、良い思い出となるであろう。</p>
考慮すべきリスク等	毎年の受け入れは阿波の方々の負担となると思われる。従って、年度により違う地域への訪問も考慮に入れるべき。

### 18. 半自動応急処置クリニック (Semi-Auto First Aid Clinic)

主なターゲット層	阿波地区の住民(及び医療サポートを必要とする観光客)
企画内容	<p>阿波地区において本格的な病院は、財政面や人材確保の点で維持が難しいと考えられるため、主に応急処置、健康チェック、及び医薬品の販売に特化したの小規模のヘルスセンターを提案する。また、完全に自動化された診療所/ドラッグストアを目指す。</p> <p>1. 完全に自動化されたヘルスチェック機器は、スタッフの助けを借りずに操作することが可能。各機器には、緊急事態のための簡易操作マニュアルとホットライン番号が明記される(たとえば機械の技術的な問題に対するサポートや、すぐに専門家の支援が必要な深刻な健康問題などに対応するため)→これらの機械には、1) 血圧、2) 体重/身長/ BMI チェック、3) 視力チェック、4) 尿検査、5) 腸/消化管検査装置などが含まれる。これらの機器は患者自身が操作できるため、専門スタッフが診療所にいる必要はない。また、交通事故などに備え救急箱も備え付ける。</p> <p>2. 最小限の人的労力で稼働させることができる小規模の半自動ドラッグストア。店舗は1人のスタッフで完全に機能させる必要がある。風邪薬、包帯、消毒薬、やけど治療薬、吸入器などの必須医薬品を提供する。既存の店舗と協力することができれば、余分なスタッフは必要ない場合も。</p> <p>3. 緊急時、自動車/バン(近くの病院に行くための救急車として)、車椅子、車輪付き担架など(理想は救急車としてのバンとの併用)のレンタルを行う。</p> <p>4. 医学部インターンの学生が、随時詳細な診察ができるよう小さな診察室をおく。</p> <p>既存のあば商店/ヤマザキデイリーストアと協力ができ、上記の設備を店舗内、または店舗隣に置くことができれば効果的。</p> <p>また、施設を住民がアクセスしやすいように阿波地区の中心部に置くことができる場合には、利用可能な既存の建物を拡張して使用することも可能</p>
対処すべき課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 阿波地区における医療施設の不足</li> <li>2. 近隣の病院への輸送の必要性を減らす</li> </ol>

	<p>3. 長い目で見て、阿波が、移住を希望する人々にとってより魅力的な地区となる可能性も。</p> <p>4. 学生インターンシッププログラムによる人気の増加の可能性。</p>
<p>必要なリソース (阿波の中から)</p>	<p>1. 1名のスタッフ →マネージャー、機械メンテナンスの役割も兼ねる。協力してくれる店舗があれば別途雇用の必要ない可能性も。協力してくれる店舗が見つからない場合は店舗兼クリニックのマネージャーを雇用する必要がある。車の運転ができる人が望ましい(阿波地区では、お年寄りや子供を除いてほとんどの人が運転されていると思われる)</p> <p>2. 必要とする設備 →健康チェックに必要な機械類など(プログラム詳細を参照)</p>
<p>必要なリソース (阿波の外から)</p>	<p>1. 津山市からの助成金</p> <p>2. 岡山大学医学部他からのインターン生</p>
<p>コストと収入</p>	<p>初期投資：備品、在庫品(医薬品など)、バン</p> <p>ランニングコスト：</p> <p>1. 在庫品：未定 一般的に、薬は長持ちし、短時間で大量に購入される可能性が低いため、在庫が少なくなったときに補充を行う。また、季節に応じて特別な種類の医薬品が販売される(例：春の花粉症)。</p> <p>2. スタッフ：通常の店員の時間給(例：800円/時間)。 薬物の販売による収入は、村の収入に計上される。これは、仕入れ(在庫)、スタッフの給与、バンのメンテナンス、ガソリン代金などに充てる。</p>
<p>学生が貢献できること</p>	<p>自分が貢献できることは、このプログラムを岡山大学医学部にプロモーションし、阿波クリニックまたは加茂村の病院を医学生のインターンシップ先として登録してもらう手助けをすることである。</p> <p>阿波が岡山大学の学生からより多くの知名度を得るにつれて、観光と地元のビジネスもこのプログラムからプラスの影響を得られると思われる。</p> <p>* このプログラムは、私がインドネシアで訪れた小さな村の状態を思い出させます。村は阿波に似ていますが、人々の衛生状態と健康状態ははるかに劣悪なものでした。舗装された道路もきれいな水もなく、住民は毎日の生活にも苦勞する状態でした。最初の診療所が建設された後、村人の生活は劇的に改善し、平均余命が延びました。人々はもはや感染症や未治療の病で死ぬことはありません。このプログラムが阿波にもこのような前向きな変化をもたらすことを願っています。</p>
<p>考慮すべきリスク等</p>	<p>リスク：1) 経営的に利益がない事、2) 機器のメンテナンスが適切に行われない可能性、3) 健康に関する情報は、住民の病気に対する不安につながり、住民をより健康にするというプログラムの目的に反する可能性がある。</p>

	良い影響：1) 住民のより良い健康、2) 住民の健康に対する意識の向上、3) インターンシッププログラムによる観光客への阿波村の宣伝効果
--	--

## 19. 「ゆるい」移住

主なターゲット層	ストレスの多い都会の生活に疲れた若い人達
企画内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田舎に移住をしたい人への住宅と畑の提供</li> <li>・ 滞在の長さは最大で半年</li> </ul> <p>→長期の移住するかどうかを考える時間を十分に持ってもらうため。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価格は可能な限り低価格で（できるだけ無料に）</li> <li>・ 滞在者がストレスを感じないよう出来るだけ彼らに自由な選択をしてもらうことが重要ではないか。またコミュニティの協力もこのプロジェクトの成功の鍵を担っている。</li> </ul>
期間	阿波の人口減少問題の改善が期待できる。阿波地区以外でも問題となっている空き家問題の対策にもなりうる。
必要なリソース (阿波の中から)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトリーダー：阿波の住民、特に阿波を復活させようとする熱意のある人々</li> <li>2. 滞在場所：空き家または民泊</li> <li>3. 必要なコスト：阿波地区あるいは津山市の負担</li> <li>4. 必要とする知識：このプログラムを宣伝するスキルが必要（写真、インターネットスキル、プログラミングなど）</li> </ol>
必要なリソース (阿波の外から)	津山市からのこのプログラムを促進または維持するための支援
コストと収入	使用可能な家があれば、それほど費用はかからないと思われる。家がなければ民泊の可能性も。普通の人々の平均的な生活費は月に約 30-50,000 円程度（食料、水、電気、日用品の費用のみ）
学生が貢献できること	岡山大学の学生として、私は阿波の人々とは違った方法でこのプログラムを広告することができるのではと考える。私は現在、マーケティングを個人的に勉強しており、どんな考えもマーケティングに繋げることができると思っている。このプロジェクトは私にとって勉強する良い機会であり、もちろん素晴らしい経験になるはずである。
考慮すべきリスク等	滞在希望者が阿波にあわない人であるリスクを避けるため、なぜ阿波に住みたいのか面接をする必要があるか。その際に阿波地区の様々な情報を提供することも重要である。

## 20. 阿波 森のがっこう

主なターゲット層	このプロジェクトではさまざまな人をターゲットにしている。幼稚園児の親子、ボランティアとしての地元の高齢者、阿波内外の若者などがあげられる。
----------	---



<p>企画内容</p>	<p>このプロジェクトのテーマは教育である。「阿波 森のがっこう」は阿波での遠足のようなものだ。私は、阿波という地域は、全ての立場の人にとって素晴らしい学びの場になると信じている。阿波には素晴らしい自然資源があり、地域ならではの特技を持ったその道の達人たちがいる。私はそれらの資源とその達人たちの融合が新たな発見や発展を生み出すのではないかと考える。</p> <p>このプロジェクトの具体的な内容の例を示すなら、川遊びの名人たちと魚釣りをするという企画である。ここでは、いくつかの領域での名人を巻き込むことができる。例えば、魚釣り名人、川魚の料理名人、そして草花や水辺の生き物の物知り名人があげられる。この「阿波 森のがっこう」では、若者と大人ともに街では学べないことを学ぶ機会を提供できる。</p>
<p>対処すべき課題</p>	<p>阿波には生き生きして活発で、何か活動したいというお年寄りがたくさんいる。例えば健康のために運動教室に通う、「加工グループ」と呼ばれる組織を作って活動する、ボランティア活動をするなどである。彼ら彼女らは定年退職した後の人生をより楽しく生きがいをもって過ごそうとすることを求めているようにも考えられる。そんな彼らを積極的にプロジェクトに呼び込みたいと思う。</p> <p>また、阿波には教育機関がないために子どもの数が少ないと考えられる。しかし、阿波の人々は子どもが大好きで、関わりを求めているようにも感じられた。子どもは地域の未来を感じさせ、その場にいるだけで喜ばしい気持ちにさせられると考えられる。そして、街の側にも課題がある。街中の幼稚園の多くではフェンスで区切られた小さな園庭で遊ぶしかなく、放課後の遊びも室内でのテレビゲームやスマホゲームに偏りがちである。街の親の中には、自分の子どもたちを自然に囲まれたところに連れて行って思いっきり遊ばせたいという考えの親もいる。私は自然の中で遊ぶことは成長期の子どもたちにいい影響がたくさんあるというのを聞いたことがある。よって私はこのプロジェクトを通して子どもたちが五感を使って遊び、心と脳の機能、そして運動能力の発達を助けられたらと考える。</p>
<p>必要なりソース (阿波の中から)</p>	<p>私たちは阿波に住む名人たちの協力を必要としている。例えば、魚釣り名人、大木や竹を切り倒すのが得意な人など。私は、彼らは昔からの知恵を伝え、若い人にとってはそれが目新しくもあるだろうと思う。また、子どもに何かを継承したいという阿波の人々全てが先生になり得ると思う。例えば、お年寄りの人生体験を聴くのは若い人たちにとって大変ためになると思う。そしてもちろん、このプロジェクトにボランティアスタッフとして阿波の人々が参加して頂ければ有難い。</p>
<p>必要なりソース (阿波の外から)</p>	<p>私は、このプロジェクトのコーディネータは阿波を訪問した岡山大学の学生にしてもらいたいと考える。また彼らは積極的に阿波の人々とつながり、協働していくことが必要である。そして、このプロジェクトには自然の中での</p>

	安全で楽しい活動の実施のために若者たちの助けが不可欠である。このためのボランティア活動は、若者にとっても良い経験になると信じている。
コストと収入	このプロジェクトに必要な費用と交通手段については見当が必要である。しかし、このプロジェクトは様々な人たちのボランティア精神によって成り立つので、それぞれの立場の人にとっての利益と意味があるような活動を考えなければならない。
学生が貢献できること	私は近いうちにこのような企画が実現できるよう行動を起こしたいと思う。このプロジェクトには、私の興味である教育や自然環境の要素が融合して含まれている。
考慮すべきリスク等	このプロジェクトでは阿波の外の人たちが阿波の人々との関わりを持つ貴重なきっかけをもたらすと考えられる。私は、このきっかけが新しいコミュニティや人同士のつながりを生み出すことを願っている。

## 21. Abar～阿波の新たな買い物システムの提案～

主なターゲット層	阿波の住民
企画内容	インターネットの力を借りれば、阿波の住民はカーシェアリングやオンラインショッピングが可能になるだろう。それらの従事する人も阿波の住民となるであることが期待される。 費用は会員制とし、1か月120円または年1,200円。全ての会員数が200人と想定するならばこれらは十分な料金であると思われる。
対処すべき課題	阿波地域のお年寄りには長距離移動で無理をしなくても買い物ができる。さらに、阿波の地域内で相互作用が生まれる。これは、地域が自立することを助けるのではないかと（外の人を排除するという意味ではなく）。私は、このプロジェクトが阿波を離れていった若者層を呼び戻し、外の若者層を呼び入れることを期待している。これが本当に実現すれば、人口減少の問題が解決するきっかけになるのではないかと考える。
必要なリソース (阿波の中から)	オンラインシステムを継続的に管理できる人、出資者(会員料金を払える人)
必要なリソース (阿波の外から)	このプロジェクトでは地域自身の自立を目標としているため、あえて必要としない。
コストと収入	オンライン買い物サイトを立ち上げるためには少なくとも約26万円必要。保険金などの準備が必要だが、まだめどが立っていない。
学生が貢献できること	私自身は人を支えて助言することができる(そのためにはたくさん勉強することが必要であるが)。最終的には住民に合意を求めてこのプロジェクトを引き継ぎたいと思っている。
考慮すべきリスク等	保険、自動車保険、他の問題(運転者と顧客間でのトラブル等)、コンピュータサーバーの不具合への備えなど。

## 22. 阿波でバス旅

主なターゲット層	観光客、特に若者
企画内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芸術と自然をテーマにしたパッケージツアーを考案する。</li> <li>・ 阿波の人々と若手芸術家がコラボし、いくつかのオブジェをつくる。</li> <li>・ 阿波を訪れた人々が SNS を通じて写真を投稿することで宣伝になる。</li> <li>・ このプログラムによってバスを増便する。</li> </ul>
対処すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運航可能なバスを増やすこと。</li> <li>・ 使われていない校舎と校庭を利活用すること。</li> <li>・ 阿波を発展させるために観光でお金を稼ぐこと。</li> </ul>
必要なリソース (阿波の中から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿波地区内の芸術作品展示場、作業場 (旧小学校等)</li> <li>・ 芸術家の滞在中の費用等</li> <li>・ 芸術家と協力する人、このプログラムを運営する人が必要。</li> </ul>
必要なリソース (阿波の外から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津山市からのバス投入</li> <li>・ 奈義町博物館等には芸術活動に関して協力してもらえるかもしれない。</li> <li>・ 若手芸術家 (有名な芸術家に比べて安い値段で招くことができるだろうということ、彼ら彼女らにとって成長のチャンスとなるだろうということ)を考慮している。</li> </ul>
コストと収入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もしこのプロジェクトがホームステイのような様式で実現されるとするならば、阿波の人々はツアーの参加費からお金を得ることができる。</li> </ul>
学生が貢献できる こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿波の人々と阿波の外の人たちとの懸け橋になれる。</li> <li>・ このプロジェクトに岡大生が関わるということが宣伝の際に役に立つかもしれない。</li> </ul>
考慮すべきリスク等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさんの人々どうしのつながりをつくることができる。</li> <li>・ お金を稼ぐことができる。</li> <li>・ 持続可能性。しかしこれは季節ごとの開催とすることで解決される。</li> </ul>

『岡山大学 阿波サービスラーニング報告書  
～地域で学んだこと、地域から学んだこと～』

2020年 岡山大学青尾研究室